

OT03 Q001

病理・臨床医学総論 > 病因・炎症・免疫・腫瘍 | 基礎

疾病の病因分類で、遺伝的素因に該当するのはどれか。この論点で、選択肢「外因」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 外因は感染、外傷、物理・化学的因子など外部から作用する要因を指す。
- イ. 遺伝的素因や体質などは宿主側に由来する内因に含まれる。
- ウ. 医原性は医療行為に関連する病因であり、遺伝的素因そのものではない。
- エ. 環境因子は一般に外因側の要素である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「外因」が誤答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「内因」に対応する説明で、判断対象「外因」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「医原性のみ」に対応する説明で、判断対象「外因」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「環境因子のみ」に対応する説明で、判断対象「外因」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。外因は感染、外傷、物理・化学的因子など外部から作用する要因を指す。判断対象は「外因」。病因は内因と外因に大別でき、実際の疾病では両者が相互に関連することも多い。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q002

病理・臨床医学総論 > 病因・炎症・免疫・腫瘍 | 基礎

急性炎症の局所徴候として典型的でないのはどれか。この論点で、選択肢「徐脈」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 徐脈は急性炎症の代表的な局所徴候ではない。
- イ. 熱感も血流増加に伴う代表的徴候である。
- ウ. 発赤は局所血流増加による代表的炎症徴候である。
- エ. 腫脹は血管透過性亢進と組織液増加に関連する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「徐脈」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「熱感」に対応する説明で、判断対象「徐脈」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「発赤」に対応する説明で、判断対象「徐脈」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「腫脹」に対応する説明で、判断対象「徐脈」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。徐脈は急性炎症の代表的な局所徴候ではない。判断対象は「徐脈」。急性炎症では発赤、熱感、腫脹、疼痛、機能障害が古典的局所徴候として知られる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q003

病理・臨床医学総論 > 病因・炎症・免疫・腫瘍 | 基礎

細菌感染による急性炎症の初期に組織へ集積しやすい細胞はどれか。この論点で、選択肢「赤血球」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 巨核球は骨髄で血小板産生に関与する。
- イ. 形質細胞は抗体産生に関与するが、急性細菌性炎症初期の主役ではない。
- ウ. 赤血球は酸素運搬を担い、炎症細胞ではない。
- エ. 好中球は急性炎症、とくに細菌感染初期で重要な貪食細胞である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「巨核球」に対応する説明で、判断対象「赤血球」の直接の根拠ではない。
イ：誤り。これは別の選択肢「形質細胞のみ」に対応する説明で、判断対象「赤血球」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「赤血球」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「好中球」に対応する説明で、判断対象「赤血球」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。赤血球は酸素運搬を担い、炎症細胞ではない。判断対象は「赤血球」。炎症細胞の構成は病期や原因で変化し、急性炎症では好中球、慢性炎症ではリンパ球やマクロファージが目立ちやすい。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q004

病理・臨床医学総論 > 病因・炎症・免疫・腫瘍 | 標準

抗体を産生する細胞へ分化するのはどれか。この論点で、選択肢「Bリンパ球」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 血小板は止血に関与する。
- イ. Bリンパ球は抗原刺激を受けて形質細胞へ分化し、抗体を産生する。
- ウ. NK細胞は自然免疫に関与するが、抗体産生細胞へ分化しない。
- エ. 好中球は主に貪食・殺菌に関与する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「血小板」に対応する説明で、判断対象「Bリンパ球」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「Bリンパ球」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「NK細胞のみ」に対応する説明で、判断対象「Bリンパ球」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「好中球」に対応する説明で、判断対象「Bリンパ球」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。Bリンパ球は抗原刺激を受けて形質細胞へ分化し、抗体を産生する。判断対象は「Bリンパ球」。液性免疫ではB細胞と抗体、細胞性免疫では主にT細胞が中心的役割を担う。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q005

病理・臨床医学総論 > 病因・炎症・免疫・腫瘍 | 標準

悪性腫瘍に特徴的なのはどれか。この論点で、選択肢「正常組織との境界が常に明瞭である」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 被膜形成と非浸潤性は良性腫瘍にみられやすい特徴である。
- イ. 悪性腫瘍は周囲組織への浸潤や遠隔転移を生じ得る。
- ウ. 悪性腫瘍では境界が不明瞭なことがある。
- エ. 腫瘍は異常な細胞増殖を特徴とする。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「必ず被膜を形成し周囲組織へ浸潤しない」に対応する説明で、判断対象「正常組織との境界が常に明瞭である」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「浸潤や転移を生じ得る」に対応する説明で、判断対象「正常組織との境界が常に明瞭である」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「正常組織との境界が常に明瞭である」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「増殖が完全に停止している」に対応する説明で、判断対象「正常組織との境界が常に明瞭である」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。悪性腫瘍では境界が不明瞭なことがある。判断対象は「正常組織との境界が常に明瞭である」。腫瘍の悪性度判断では浸潤性、転移能、細胞異型、増殖速度などを総合して考える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q006

病理・臨床医学総論 > 病因・炎症・免疫・腫瘍 | 応用

慢性炎症について正しいのはどれか。この論点で、選択肢「一部の臓器では長期持続する炎症ががんリスク上昇と関連する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 慢性炎症は組織障害と修復を繰り返し、一部のがん発症リスクと関連する。
- イ. 慢性炎症では酸化ストレスなどを介してDNA損傷が増える可能性がある。
- ウ. 自己免疫、肥満など感染以外でも慢性炎症は起こり得る。
- エ. マクロファージやリンパ球などの免疫細胞が関与する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「一部の臓器では長期持続する炎症ががんリスク上昇と関連する」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「炎症が長期化するとDNA損傷は必ず減少する」に対応する説明で、判断対象「一部の臓器では長期持続する炎症ががんリスク上昇と関連する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「慢性炎症は感染以外では生じない」に対応する説明で、判断対象「一部の臓器では長期持続する炎症ががんリスク上昇と関連する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「慢性炎症では免疫細胞は存在しない」に対応する説明で、判断対象「一部の臓器では長期持続する炎症ががんリスク上昇と関連する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。慢性炎症は組織障害と修復を繰り返し、一部のがん発症リスクと関連する。判断対象は「一部の臓器では長期持続する炎症ががんリスク上昇と関連する」。慢性炎症と腫瘍形成の関連は、持続的組織障害、炎症性メディエーター、修復過程など複数要因で説明される。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q007

病理・臨床医学総論 > 臨床検査・薬物・感染・救急 | 基礎

末梢血液検査で貧血の評価に直接用いられる項目はどれか。この論点で、選択肢「血小板数のみ」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 血小板数は主に止血能評価に関係する。
- イ. 血清Naは電解質評価に用いる。
- ウ. ヘモグロビン濃度は貧血の有無・程度を評価する基本項目である。
- エ. CRPは炎症反応の指標である。

答え・4肢解説

正答：ア

- ア：正しい。これは判断対象「血小板数のみ」が誤答となる理由を直接説明している。
- イ：誤り。これは別の選択肢「血清Naのみ」に対応する説明で、判断対象「血小板数のみ」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「ヘモグロビン濃度」に対応する説明で、判断対象「血小板数のみ」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「CRPのみ」に対応する説明で、判断対象「血小板数のみ」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。血小板数は主に止血能評価に関係する。判断対象は「血小板数のみ」。血算では赤血球系、白血球系、血小板系を分けて解釈する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q008

病理・臨床医学総論 > 臨床検査・薬物・感染・救急 | 標準

CRPについて正しいのはどれか。この論点で、選択肢「炎症の度を反映するが原因疾患に特異的ではない」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. CRPは筋力指標ではない。
- イ. CRPは炎症反応の指標だが、感染、自己免疫疾患、組織障害など多様な原因で上昇する。
- ウ. 細菌感染以外でも上昇し得る。
- エ. 関節可動域はゴニオメーターなどで評価する。

答え・4肢解説

正答：イ

- ア：誤り。これは別の選択肢「肝機能と無関係に筋力を示す」に対応する説明で、判断対象「炎症の度を反映するが原因疾患に特異的ではない」の直接の根拠ではない。
- イ：正しい。これは判断対象「炎症の度を反映するが原因疾患に特異的ではない」が正答となる理由を直接説明している。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「細菌感染だけで必ず上昇する」に対応する説明で、判断対象「炎症の度を反映するが原因疾患に特異的ではない」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「関節可動域を直接測定する」に対応する説明で、判断対象「炎症の度を反映するが原因疾患に特異的ではない」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。CRPは炎症反応の指標だが、感染、自己免疫疾患、組織障害など多様な原因で上昇する。判断対象は「炎症の度を反映するが原因疾患に特異的ではない」。検査値は単独で診断を確定せず、症状、身体所見、他検査と統合して解釈する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q009

病理・臨床医学総論 > 臨床検査・薬物・感染・救急 | 標準

画像検査について正しいのはどれか。この論点で、選択肢「MRIは電離放射線を用いる」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. CTはX線を利用して断層画像を作成する。
- イ. 超音波は表在軟部組織などに有用だが骨髄内部描出には制約がある。
- ウ. MRIは軟部組織描出に優れる場面が多い。
- エ. MRIは主に強い磁場と電波を利用し、通常は電離放射線を用いない。

答え・4肢解説

正答：エ

- ア：誤り。これは別の選択肢「CTはX線を利用する」に対応する説明で、判断対象「MRIは電離放射線を用いる」の直接の根拠ではない。
- イ：誤り。これは別の選択肢「超音波検査は骨髄内部を最も詳細に描出する」に対応する説明で、判断対象「MRIは電離放射線を用いる」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「単純X線は軟部組織をMRIより常に詳細に描出する」に対応する説明で、判断対象「MRIは電離放射線を用いる」の直接の根拠ではない。
- エ：正しい。これは判断対象「MRIは電離放射線を用いる」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。MRIは主に強い磁場と電波を利用し、通常は電離放射線を用いない。判断対象は「MRIは電離放射線を用いる」。画像検査は目的、緊急性、禁忌、被曝、軟部組織描出などを考慮して選択される。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q010

病理・臨床医学総論 > 臨床検査・薬物・感染・救急 | 標準

薬物の血中濃度半減期の説明として正しいのはどれか。この論点で、選択肢「血中濃度が約半分になるまでの時間」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 吸収開始時間とは異なる。
- イ. 副作用出現時間を示す指標ではない。
- ウ. 半減期は血中濃度または体内薬物量が一定条件下で半分になるまでの時間を指す。
- エ. 薬効消失時刻と必ず一致しない。

答え・4肢解説

正答：ウ

- ア：誤り。これは別の選択肢「薬を吸収し始めるまでの時間のみ」に対応する説明で、判断対象「血中濃度が約半分になるまでの時間」の直接の根拠ではない。
- イ：誤り。これは別の選択肢「副作用が出現するまでの固定時間」に対応する説明で、判断対象「血中濃度が約半分になるまでの時間」の直接の根拠ではない。
- ウ：正しい。これは判断対象「血中濃度が約半分になるまでの時間」が正答となる理由を直接説明している。
- エ：誤り。これは別の選択肢「薬効が必ず完全消失するまでの時間」に対応する説明で、判断対象「血中濃度が約半分になるまでの時間」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。半減期は血中濃度または体内薬物量が一定条件下で半分になるまでの時間を指す。判断対象は「血中濃度が約半分になるまでの時間」。半減期は投与間隔や定常状態到達の理解に重要だが、薬効時間とは同義ではない。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q011

病理・臨床医学総論 > 臨床検査・薬物・感染・救急 | 基礎

標準予防策 Standard Precautions の考え方として正しいのはどれか。この論点で、選択肢「血液曝露の可能性があっても个人防护具は使用しない」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 感染確定例だけに限定しない。
- イ. 手指衛生は標準予防策の基本要素である。
- ウ. 標準予防策はすべての患者を対象とし、予想される曝露に応じて手指衛生や个人防护具を用いる。
- エ. 曝露リスクに応じて手袋、ガウン、マスク、眼保護などを選択する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「感染が確定した患者だけに適用する」に対応する説明で、判断対象「血液曝露の可能性があっても个人防护具は使用しない」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「手指衛生は含まれない」に対応する説明で、判断対象「血液曝露の可能性があっても个人防护具は使用しない」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「感染症の診断の有無にかかわらず全患者に適用する」に対応する説明で、判断対象「血液曝露の可能性があっても个人防护具は使用しない」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「血液曝露の可能性があっても个人防护具は使用しない」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。曝露リスクに応じて手袋、ガウン、マスク、眼保護などを選択する。判断対象は「血液曝露の可能性があっても个人防护具は使用しない」。感染管理では標準予防策を基本とし、必要に応じて接触・飛沫・空気予防策を追加する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q012

病理・臨床医学総論 > 臨床検査・薬物・感染・救急 | 標準

感染症患者に新たな意識混乱、頻脈、低血圧、息苦しさが出現した。最も優先すべき対応はどれか。この論点で、選択肢「敗血症などの重篤化を疑い速やかに医療評価へつなげる」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 循環不安定時に運動負荷を上げるのは不適切である。
- イ. 敗血症は生命を脅かす緊急病態であり、疑えば迅速な評価と治療が必要である。
- ウ. 原因治療と全身管理が必要で、飲水だけで十分とは限らない。
- エ. 急性の全身状態悪化を放置すべきではない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「運動負荷を上げて反応を見る」に対応する説明で、判断対象「敗血症などの重篤化を疑い速やかに医療評価へつなげる」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「敗血症などの重篤化を疑い速やかに医療評価へつなげる」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「水分摂取だけで必ず改善すると判断する」に対応する説明で、判断対象「敗血症などの重篤化を疑い速やかに医療評価へつなげる」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「翌週まで経過観察だけとする」に対応する説明で、判断対象「敗血症などの重篤化を疑い速やかに医療評価へつなげる」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。敗血症は生命を脅かす緊急病態であり、疑えば迅速な評価と治療が必要である。判断対象は「敗血症などの重篤化を疑い速やかに医療評価へつなげる」。リハビリテーション中でも全身状態の急変を見逃さず、感染に伴う循環・呼吸・意識変化を緊急所見として扱う。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q013

病理・臨床医学総論 > 臨床検査・薬物・感染・救急 | 標準

AED 自動体外式除細動器 の主な役割はどれか。この論点で、選択肢「酸素飽和度だけを測定する」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 整形外科的固定器具ではない。
- イ. 無脈性電気活動や心静止などショック非適応リズムもある。
- ウ. AEDは心電図リズムを解析し、心室細動などショック適応時に除細動を行う。
- エ. パルスオキシメータではない。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「骨折部を固定する」に対応する説明で、判断対象「酸素飽和度だけを測定する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「すべての心停止で必ずショックを行う」に対応する説明で、判断対象「酸素飽和度だけを測定する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「心電図を自動解析し、適応がある致死性不整脈に電気ショックを行う」に対応する説明で、判断対象「酸素飽和度だけを測定する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「酸素飽和度だけを測定する」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。パルスオキシメータではない。判断対象は「酸素飽和度だけを測定する」。AEDは心肺蘇生と組み合わせて用い、機器の音声指示に従って安全に使用する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q014

病理・臨床医学総論 > 周術期・全身管理 | 標準

術後の深部静脈血栓症 DVT リスクを高めやすい要因はどれか。この論点で、選択肢「長時間の不動」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 歩行再開は不動を減らす。
- イ. 筋ポンプ活動は静脈還流を促進する。
- ウ. 長時間の不動は静脈うっ滞を生じ、DVTリスクを高める。
- エ. 病状が許せば早期離床は静脈うっ滞予防に有用である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「十分な歩行再開」に対応する説明で、判断対象「長時間の不動」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「下肢筋ポンプ活動の増加」に対応する説明で、判断対象「長時間の不動」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「長時間の不動」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「適切な早期離床」に対応する説明で、判断対象「長時間の不動」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。長時間の不動は静脈うっ滞を生じ、DVTリスクを高める。判断対象は「長時間の不動」。周術期では血栓リスク、出血リスク、循環状態を踏まえて安全に離床を進める。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q015

病理・臨床医学総論 > 周術期・全身管理 | 標準

全身麻酔後の患者で、深呼吸不足や臥床が続いた場合に生じやすい呼吸器合併症はどれか。
この論点で、選択肢「気胸が必ず発生する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 術後は疼痛などで肺活量が低下し得る。
- イ. 浅い呼吸や不動により肺胞換気が低下すると無気肺を生じやすい。
- ウ. 全身麻酔後に気胸が必ず起こるわけではない。
- エ. 分泌物貯留はむしろ問題となり得る。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「肺活量が必ず増加する」に対応する説明で、判断対象「気胸が必ず発生する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「無気肺」に対応する説明で、判断対象「気胸が必ず発生する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「気胸が必ず発生する」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「気道分泌が必ず消失する」に対応する説明で、判断対象「気胸が必ず発生する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。全身麻酔後に気胸が必ず起こるわけではない。判断対象は「気胸が必ず発生する」。術後呼吸管理では疼痛、換気、分泌物、酸素化を確認し、病状に応じて離床や呼吸練習を行う。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q016

病理・臨床医学総論 > 周術期・全身管理 | 標準

高齢者が手術翌日に急に注意が散漫となり、時間帯によって見当識が変動している。最も考えやすいのはどれか。この論点で、選択肢「術後せん妄」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 認知症は通常、数時間単位で急激に完成する経過ではない。
- イ. 急性発症、注意障害、症状の変動はせん妄に典型的である。
- ウ. 関節疾患ではない。
- エ. 末梢神経麻痺ではこの意識・注意変動を説明しにくい。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「慢性認知症が数時間で完成した状態」に対応する説明で、判断対象「術後せん妄」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「術後せん妄」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「変形性関節症」に対応する説明で、判断対象「術後せん妄」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「末梢神経麻痺」に対応する説明で、判断対象「術後せん妄」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。急性発症、注意障害、症状の変動はせん妄に典型的である。判断対象は「術後せん妄」。術後せん妄では感染、薬剤、疼痛、睡眠障害、脱水など誘因を評価し、安全確保と原因への対応が重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q017

病理・臨床医学総論 > 周術期・全身管理 | 標準

創傷治癒の初期にまず重要となる反応はどれか。この論点で、選択肢「腫瘍転移」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 成熟瘢痕は後期の過程である。
- イ. 一般的創傷治癒の必須過程ではない。
- ウ. 創傷治癒は止血・炎症から始まり、その後に増殖、成熟・再構築へ進む。
- エ. 正常創傷治癒とは無関係である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「成熟瘢痕の完成」に対応する説明で、判断対象「腫瘍転移」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「骨化の完成」に対応する説明で、判断対象「腫瘍転移」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「止血と炎症反応」に対応する説明で、判断対象「腫瘍転移」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「腫瘍転移」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。正常創傷治癒とは無関係である。判断対象は「腫瘍転移」。創傷治癒は段階的だが各相は重なり合い、全身状態、栄養、感染、循環などの影響を受ける。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q018

病理・臨床医学総論 > 周術期・全身管理 | 標準

臥位から立位へ移行した直後にめまい、冷汗が出現し血圧が低下した。最も考えやすいのはどれか。この論点で、選択肢「起立性低血圧」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 関節拘縮は循環症状を説明しない。
- イ. 肺塞栓も鑑別となり得るが、この所見だけで必ず肺塞栓とはいえない。
- ウ. 体位変換後の血圧低下とめまいは起立性低血圧を示唆する。
- エ. 高血圧緊急症は血圧低下ではない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「関節拘縮」に対応する説明で、判断対象「起立性低血圧」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「肺塞栓が必ず原因である」に対応する説明で、判断対象「起立性低血圧」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「起立性低血圧」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「高血圧緊急症のみ」に対応する説明で、判断対象「起立性低血圧」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。体位変換後の血圧低下とめまいは起立性低血圧を示唆する。判断対象は「起立性低血圧」。離床時は血圧、脈拍、自覚症状を確認し、症候性低血圧があれば安全確保して再評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q019

病理・臨床医学総論 > 周術期・全身管理 | 応用

離床訓練中に新たな胸痛、呼吸困難、冷汗、意識レベル低下が出現した。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「予定時間まで訓練を続ける」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 単独放置せず緊急評価へつなぐ。
- イ. 新規の胸痛・呼吸困難・意識変化は重篤な心肺疾患を含む急変の可能性があり、即時対応が必要である。
- ウ. 症状悪化の危険がある。
- エ. 負荷増加は危険である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「水を飲ませて一人で休ませる」に対応する説明で、判断対象「予定時間まで訓練を続ける」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「訓練を中止し、速やかに医療スタッフへ報告して緊急評価につなげる」に対応する説明で、判断対象「予定時間まで訓練を続ける」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「予定時間まで訓練を続ける」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「歩行速度を上げて症状を確認する」に対応する説明で、判断対象「予定時間まで訓練を続ける」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。症状悪化の危険がある。判断対象は「予定時間まで訓練を続ける」。リハビリテーションでは治療継続より安全を優先し、急変徴候を認めたら中止・報告・適切な救急対応を行う。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q020

病理・臨床医学総論 > 周術期・全身管理 | 標準

術後の創傷治癒を遅らせる要因として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「重度の低栄養」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 適切な栄養は治癒を支える。
- イ. 低栄養は蛋白合成や免疫機能などを低下させ、創傷治癒遅延に関与する。
- ウ. 良好な血糖管理は感染・創傷管理上重要である。
- エ. 十分な灌流は酸素・栄養供給に必要である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「適切な蛋白・エネルギー摂取」に対応する説明で、判断対象「重度の低栄養」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「重度の低栄養」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「良好な血糖管理」に対応する説明で、判断対象「重度の低栄養」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「十分な組織灌流」に対応する説明で、判断対象「重度の低栄養」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。低栄養は蛋白合成や免疫機能などを低下させ、創傷治癒遅延に関与する。判断対象は「重度の低栄養」。周術期の全身管理では栄養、循環、感染、血糖など複数因子が回復に影響する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q021

神経系疾患 > 脳血管障害 | 基礎

脳血管障害のうち、脳血管の閉塞によって脳組織への血流が低下するものはどれか。この論点で、選択肢「脳内出血」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 硬膜下血腫は頭蓋内出血の一種だが脳梗塞ではない。
- イ. くも膜下出血は出血性病変である。
- ウ. 脳梗塞は血栓や塞栓などにより脳血管が閉塞し、虚血性障害を生じる。
- エ. 脳内出血は脳実質内への出血である。

答え・4肢解説

正答：エ

- ア：誤り。これは別の選択肢「硬膜下血腫」に対応する説明で、判断対象「脳内出血」の直接の根拠ではない。
- イ：誤り。これは別の選択肢「くも膜下出血」に対応する説明で、判断対象「脳内出血」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「脳梗塞」に対応する説明で、判断対象「脳内出血」の直接の根拠ではない。
- エ：正しい。これは判断対象「脳内出血」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。脳内出血は脳実質内への出血である。判断対象は「脳内出血」。脳卒中は大きく虚血性と出血性に分けられ、病態により急性期対応が異なる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q022

神経系疾患 > 脳血管障害 | 標準

左中大脳動脈領域の脳梗塞でみられやすい所見はどれか。この論点で、選択肢「右顔面・上肢優位の麻痺と失語」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 前大脳動脈領域では下肢優位症状が目立ちやすい。
- イ. 左中大脳動脈領域では対側顔面・上肢優位の麻痺や、優位半球障害による失語がみられやすい。
- ウ. 視野障害を伴うことはあるが、運動障害が起こらないとはいえない。
- エ. 典型的な左MCA単独病変ではない。

答え・4肢解説

正答：イ

- ア：誤り。これは別の選択肢「左下肢だけの麻痺と失語なし」に対応する説明で、判断対象「右顔面・上肢優位の麻痺と失語」の直接の根拠ではない。
- イ：正しい。これは判断対象「右顔面・上肢優位の麻痺と失語」が正答となる理由を直接説明している。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「右同名半盲だけで運動障害は起こらない」に対応する説明で、判断対象「右顔面・上肢優位の麻痺と失語」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「両側下肢麻痺のみ」に対応する説明で、判断対象「右顔面・上肢優位の麻痺と失語」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。左中大脳動脈領域では対側顔面・上肢優位の麻痺や、優位半球障害による失語がみられやすい。判断対象は「右顔面・上肢優位の麻痺と失語」。血管領域と大脳皮質機能局在を関連付けて理解すると、症候から病変部位を推定しやすい。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q023

神経系疾患 > 脳血管障害 | 標準

前大脳動脈領域の脳梗塞で目立ちやすい運動麻痺はどれか。この論点で、選択肢「両手指のみの麻痺」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

ア. 顔面単独症状の典型ではない。

イ. 前大脳動脈は大脳半球内側面の下肢運動領域を灌流するため、対側下肢優位の麻痺が生じやすい。

ウ. 上肢優位麻痺は中大脳動脈領域で目立ちやすい。

エ. 両手指のみの麻痺ではない。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「同側顔面のみの麻痺」に対応する説明で、判断対象「両手指のみの麻痺」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「対側下肢優位の麻痺」に対応する説明で、判断対象「両手指のみの麻痺」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「対側上肢のみの麻痺」に対応する説明で、判断対象「両手指のみの麻痺」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「両手指のみの麻痺」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。両手指のみの麻痺ではない。判断対象は「両手指のみの麻痺」。一次運動野の下肢領域は大脳半球内側面に位置し、前大脳動脈領域と対応する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q024

神経系疾患 > 脳血管障害 | 標準

右利き成人で左大脳半球の言語野が障害されたとき、最も生じやすいのはどれか。この論点で、選択肢「失語」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

ア. 多くの右利き成人では左半球が言語優位半球であり、障害で失語が生じ得る。

イ. 大脳言語野障害の中心症状ではない。

ウ. 小脳病変ではない。

エ. 半側空間無視は非優位半球、特に右半球病変で目立ちやすい。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「失語」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「末梢性顔面神経麻痺のみ」に対応する説明で、判断対象「失語」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「純粋な小脳失調」に対応する説明で、判断対象「失語」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「左半側空間無視のみ」に対応する説明で、判断対象「失語」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。多くの右利き成人では左半球が言語優位半球であり、障害で失語が生じ得る。判断対象は「失語」。失語は言語機能の障害であり、構音障害とは区別する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q025

神経系疾患 > 脳血管障害 | 標準

右大脳半球の広範な脳卒中後にみられやすい高次脳機能障害はどれか。この論点で、選択肢「Broca失語のみ」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 大脳半球病変で末梢神経障害が直接起こるわけではない。
- イ. 右半球障害では左側空間への注意が低下する半側空間無視が生じやすい。
- ウ. 記憶障害だけに限定されない。
- エ. Broca失語は通常、左優位半球病変と関連する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「右末梢神経障害」に対応する説明で、判断対象「Broca失語のみ」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「左半側空間無視」に対応する説明で、判断対象「Broca失語のみ」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「純粋な記憶障害のみ」に対応する説明で、判断対象「Broca失語のみ」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「Broca失語のみ」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。Broca失語は通常、左優位半球病変と関連する。判断対象は「Broca失語のみ」。半側空間無視では視野障害だけでなく、注意・探索・身体認識の障害としてADLへ影響する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q026

神経系疾患 > 脳血管障害 | 標準

小さな病変でも顔面・上肢・下肢に強い対側運動麻痺を生じやすい部位はどれか。この論点で、選択肢「内包」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 後頭葉視覚野では視野障害が中心となる。
- イ. 小脳虫部では体幹失調などが目立ちやすい。
- ウ. 海馬は記憶形成に重要である。
- エ. 内包には皮質脊髓路や皮質核路などの運動線維が密集している。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「後頭葉視覚野」に対応する説明で、判断対象「内包」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「小脳虫部」に対応する説明で、判断対象「内包」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「海馬」に対応する説明で、判断対象「内包」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「内包」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。内包には皮質脊髓路や皮質核路などの運動線維が密集している。判断対象は「内包」。内包病変では線維密度が高いため、病変サイズが小さくても広範な運動麻痺を生じ得る。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q027

神経系疾患 > 脳血管障害 | 応用

左後大脳動脈領域の後頭葉病変で生じやすいのはどれか。この論点で、選択肢「右上肢だけの末梢性麻痺」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 左後頭葉視覚野の障害では右視野が両眼で欠損する右同名半盲を生じ得る。
- イ. 聴覚障害だけの病変ではない。
- ウ. 末梢神経障害ではない。
- エ. 左半側空間無視は右半球病変と関連しやすい。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「右同名半盲」に対応する説明で、判断対象「右上肢だけの末梢性麻痺」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「両耳聾のみ」に対応する説明で、判断対象「右上肢だけの末梢性麻痺」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「右上肢だけの末梢性麻痺」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「左半側空間無視のみ」に対応する説明で、判断対象「右上肢だけの末梢性麻痺」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。末梢神経障害ではない。判断対象は「右上肢だけの末梢性麻痺」。後大脳動脈は後頭葉などを灌流し、視覚症状が重要な手掛かりとなる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q028

神経系疾患 > 脳血管障害 | 基礎

突然の片側顔面麻痺、片腕脱力、言語障害が出現した。最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「脳卒中を疑い直ちに救急対応につなげる」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 原因評価前の運動訓練を優先しない。
- イ. 治療可能時間が限られるため待機は不適切である。
- ウ. 軽快しても一過性脳虚血発作を含む可能性があり評価が必要である。
- エ. 突然の顔面・上肢・言語症状は脳卒中を疑う重要な徴候で、迅速な評価が必要である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「運動訓練を先に行う」に対応する説明で、判断対象「脳卒中を疑い直ちに救急対応につなげる」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「翌日まで自宅で様子を見る」に対応する説明で、判断対象「脳卒中を疑い直ちに救急対応につなげる」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「症状が軽ければ記録しない」に対応する説明で、判断対象「脳卒中を疑い直ちに救急対応につなげる」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「脳卒中を疑い直ちに救急対応につなげる」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。突然の顔面・上肢・言語症状は脳卒中を疑う重要な徴候で、迅速な評価が必要である。判断対象は「脳卒中を疑い直ちに救急対応につなげる」。脳卒中では発症時刻を確認し、速やかに救急医療へつなぐことが重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q029

神経系疾患 > Parkinson病・脊髄小脳変性症 | 基礎

Parkinson病の代表的な運動症状はどれか。この論点で、選択肢「失語のみ」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 弛緩性麻痺だけを主徴とする病気ではない。
- イ. 感覚脱失のみではない。
- ウ. 失語を主徴とする病気ではない。
- エ. 動作緩慢はParkinson病の中核的運動症状である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「弛緩性麻痺だけ」に対応する説明で、判断対象「失語のみ」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「感覚脱失のみ」に対応する説明で、判断対象「失語のみ」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「失語のみ」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「動作緩慢」に対応する説明で、判断対象「失語のみ」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。失語を主徴とする病気ではない。判断対象は「失語のみ」。Parkinson病では動作緩慢、筋強剛、安静時振戦、姿勢保持障害などがみられる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q030

神経系疾患 > Parkinson病・脊髄小脳変性症 | 基礎

Parkinson病で典型的な振戦はどれか。この論点で、選択肢「安静時に目立ち、随意運動で軽減することがある」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. Parkinson病の振戦は安静時に目立つことが多い。
- イ. 動作時振戦だけが特徴ではない。
- ウ. 上肢にもよくみられる。
- エ. 感覚障害だけで説明されない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「安静時に目立ち、随意運動で軽減することがある」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「動作時だけ出現し安静時には絶対ない」に対応する説明で、判断対象「安静時に目立ち、随意運動で軽減することがある」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「下肢にしか出現しない」に対応する説明で、判断対象「安静時に目立ち、随意運動で軽減することがある」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「感覚障害によってのみ生じる」に対応する説明で、判断対象「安静時に目立ち、随意運動で軽減することがある」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。Parkinson病の振戦は安静時に目立つことが多い。判断対象は「安静時に目立ち、随意運動で軽減することがある」。振戦の出現条件を観察することはParkinson病と他の振戦性疾患の鑑別に役立つ。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q031

神経系疾患 > Parkinson病・脊髄小脳変性症 | 標準

Parkinson病患者の歩行でみられやすいのはどれか。この論点で、選択肢「鶏歩のみ」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 小脳性失調歩行とは異なる。
- イ. 歩幅減少、小刻み歩行、すくみ足、方向転換困難などがみられる。
- ウ. 歩幅はむしろ小さくなりやすい。
- エ. 鶏歩は下垂足でみられやすい。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「失調性開脚歩行だけ」に対応する説明で、判断対象「鶏歩のみ」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「小刻み歩行とすくみ足」に対応する説明で、判断対象「鶏歩のみ」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「常に大股歩行」に対応する説明で、判断対象「鶏歩のみ」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「鶏歩のみ」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。鶏歩は下垂足でみられやすい。判断対象は「鶏歩のみ」。Parkinson病の歩行障害ではリズム・歩幅・開始・方向転換など多面的評価が必要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q032

神経系疾患 > Parkinson病・脊髄小脳変性症 | 基礎

脊髄小脳変性症でみられやすい症候はどれか。この論点で、選択肢「測定障害や協調運動障害」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 小脳障害では測定障害、企図振戦、反復拮抗運動障害、失調性歩行などがみられる。
- イ. 小脳症状が中心となる病型がある。
- ウ. 痙性症状を伴う病型もあるが、典型をこれだけで表せない。
- エ. 末梢感覚障害だけではない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「測定障害や協調運動障害」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「筋強剛だけで小脳症状はない」に対応する説明で、判断対象「測定障害や協調運動障害」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「完全な痙性対麻痺のみ」に対応する説明で、判断対象「測定障害や協調運動障害」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「末梢感覚脱失だけ」に対応する説明で、判断対象「測定障害や協調運動障害」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。小脳障害では測定障害、企図振戦、反復拮抗運動障害、失調性歩行などがみられる。判断対象は「測定障害や協調運動障害」。脊髄小脳変性症は多様な病型を含むが、小脳性運動失調が重要な共通症候である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q033

神経系疾患 > Parkinson病・脊髄小脳変性症 | 応用

Parkinson病よりも小脳障害で典型的なのはどれか。この論点で、選択肢「鉛管様筋強剛」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. すくみ足もParkinson病でみられやすい。
- イ. 筋強剛もParkinson病に特徴的である。
- ウ. 安静時振戦はParkinson病で典型的である。
- エ. 指鼻試験での過大・過小測定は小脳性運動失調の代表所見である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「すくみ足」に対応する説明で、判断対象「鉛管様筋強剛」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「鉛管様筋強剛」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「安静時振戦」に対応する説明で、判断対象「鉛管様筋強剛」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「指鼻試験での測定障害」に対応する説明で、判断対象「鉛管様筋強剛」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。筋強剛もParkinson病に特徴的である。判断対象は「鉛管様筋強剛」。運動失調、筋強剛、振戦などの質を区別すると病変系統の推定に役立つ。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q034

神経系疾患 > ALS・多発性硬化症 | 標準

筋萎縮性側索硬化症 ALS について正しいのはどれか。この論点で、選択肢「上位・下位運動ニューロン障害をともに生じ得る」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 視神経炎は多発性硬化症でみられることがある。
- イ. ALSでは上位運動ニューロン徴候と下位運動ニューロン徴候が併存し得る。
- ウ. 神経変性疾患であり関節疾患ではない。
- エ. 感覚障害だけを主徴としない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「視神経炎だけで経過する」に対応する説明で、判断対象「上位・下位運動ニューロン障害をともに生じ得る」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「上位・下位運動ニューロン障害をともに生じ得る」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「関節軟骨だけが変性する」に対応する説明で、判断対象「上位・下位運動ニューロン障害をともに生じ得る」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「感覚神経だけが選択的に障害される」に対応する説明で、判断対象「上位・下位運動ニューロン障害をともに生じ得る」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。ALSでは上位運動ニューロン徴候と下位運動ニューロン徴候が併存し得る。判断対象は「上位・下位運動ニューロン障害をともに生じ得る」。ALSでは筋力低下、筋萎縮、線維束性収縮、腱反射亢進などが組み合わさり得る。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q035

神経系疾患 > ALS・多発性硬化症 | 基礎

ALSで一般に比較的保たれやすい機能はどれか。この論点で、選択肢「呼吸筋機能」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 球症状として嚥下障害を生じ得る。
- イ. 随意運動は進行性に障害される。
- ウ. ALSでは運動ニューロン障害が中心で、感覚は比較的保たれることが多い。
- エ. 進行すると呼吸筋障害が重要となる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「嚥下機能」に対応する説明で、判断対象「呼吸筋機能」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「随意運動機能」に対応する説明で、判断対象「呼吸筋機能」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「感覚機能」に対応する説明で、判断対象「呼吸筋機能」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「呼吸筋機能」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。進行すると呼吸筋障害が重要となる。判断対象は「呼吸筋機能」。ALSの評価では運動・呼吸・嚥下・コミュニケーション機能を継続的に把握する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q036

神経系疾患 > ALS・多発性硬化症 | 標準

多発性硬化症 MS の主な病態はどれか。この論点で、選択肢「中枢神経系の炎症性脱髄」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 末梢神経だけの病気ではない。
- イ. MSは脳・脊髄・視神経など中枢神経系の炎症性脱髄疾患である。
- ウ. 関節疾患ではない。
- エ. 骨髄腫瘍ではない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「末梢神経だけの軸索断裂」に対応する説明で、判断対象「中枢神経系の炎症性脱髄」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「中枢神経系の炎症性脱髄」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「関節滑膜炎だけ」に対応する説明で、判断対象「中枢神経系の炎症性脱髄」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「骨髄腫瘍だけ」に対応する説明で、判断対象「中枢神経系の炎症性脱髄」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。MSは脳・脊髄・視神経など中枢神経系の炎症性脱髄疾患である。判断対象は「中枢神経系の炎症性脱髄」。MSでは病変部位に応じて視覚、感覚、運動、平衡、膀胱機能など多彩な症状を示す。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q037

神経系疾患 > ALS・多発性硬化症 | 応用

ALSよりも多発性硬化症でみられやすいのはどれか。この論点で、選択肢「下位運動ニューロン徴候だけ」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 進行性筋萎縮だけではMSを特徴づけない。
- イ. 線維束性収縮は下位運動ニューロン障害でみられやすい。
- ウ. MSは中枢神経脱髄疾患であり下位運動ニューロン徴候だけではない。
- エ. MSでは視神経や感覚路の脱髄により視神経炎・感覚障害などがみられ得る。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「進行性筋萎縮のみ」に対応する説明で、判断対象「下位運動ニューロン徴候だけ」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「線維束性収縮だけ」に対応する説明で、判断対象「下位運動ニューロン徴候だけ」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「下位運動ニューロン徴候だけ」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「視神経炎や感覚障害」に対応する説明で、判断対象「下位運動ニューロン徴候だけ」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。MSは中枢神経脱髄疾患であり下位運動ニューロン徴候だけではない。判断対象は「下位運動ニューロン徴候だけ」。疾患比較では『どの神経系統が主に障害されるか』を軸に整理すると理解しやすい。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q038

神経系疾患 > 脊髄損傷 | 標準

脊髄損傷で、損傷高位より下に仙髄を含む感覚・運動機能が一部残存している状態はどれか。この論点で、選択肢「不全損傷」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 仙髄機能の温存は不全損傷を示す重要な所見である。
- イ. 完全損傷では仙髄機能の温存を認めない。
- ウ. 脳幹障害の分類ではない。
- エ. 脊髄損傷の分類である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「不全損傷」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「完全損傷のみ」に対応する説明で、判断対象「不全損傷」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「脳幹障害のみ」に対応する説明で、判断対象「不全損傷」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「末梢神経障害のみ」に対応する説明で、判断対象「不全損傷」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。仙髄機能の温存は不全損傷を示す重要な所見である。判断対象は「不全損傷」。脊髄損傷では神経学的高位と完全性を系統的に評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q039

神経系疾患 > 脊髄損傷 | 基礎

頸髄損傷でみられやすい障害はどれか。この論点で、選択肢「上肢機能は必ず完全正常」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 損傷高位によって上肢機能も障害される。
- イ. 胸腰髄損傷では対麻痺が中心となる。
- ウ. 頸髄損傷では上肢・体幹・下肢に障害を生じ、四肢麻痺となり得る。
- エ. 失語は大脳言語機能障害である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「上肢機能は必ず完全正常」が誤答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「下肢だけの単麻痺」に対応する説明で、判断対象「上肢機能は必ず完全正常」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「四肢麻痺」に対応する説明で、判断対象「上肢機能は必ず完全正常」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「失語のみ」に対応する説明で、判断対象「上肢機能は必ず完全正常」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。損傷高位によって上肢機能も障害される。判断対象は「上肢機能は必ず完全正常」。機能予後は神経学的損傷高位と損傷の完全性に大きく左右される。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q040

神経系疾患 > 脊髄損傷 | 標準

急性脊髄損傷直後に損傷高位以下で反射が一時的に低下・消失する状態はどれか。この論点で、選択肢「脊髄ショック」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 脊髄ショックでは急性期に反射・筋緊張が低下する。
- イ. Parkinson症候群ではない。
- ウ. 自律神経過反射は脊髄ショックとは異なる合併症である。
- エ. 慢性疼痛症候群ではない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「脊髄ショック」が正答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「Parkinson症候群」に対応する説明で、判断対象「脊髄ショック」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「自律神経過反射」に対応する説明で、判断対象「脊髄ショック」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「CRPS」に対応する説明で、判断対象「脊髄ショック」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。脊髄ショックでは急性期に反射・筋緊張が低下する。判断対象は「脊髄ショック」。脊髄ショックの回復に伴い反射活動が戻り、その後に痙性が明らかになることがある。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q041

神経系疾患 > 脊髄損傷 | 応用

高位脊髄損傷患者が突然激しい頭痛を訴え、血圧が著明に上昇した。膀胱充満も認める。最も考えやすいのはどれか。この論点で、選択肢「起立性低血圧」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

ア. 頭痛と急激な高血圧を筋肉痛では説明できない。

イ. 失語は言語障害である。

ウ. 起立性低血圧では血圧が低下する。

エ. 高位脊髄損傷では膀胱充満などの刺激を契機に自律神経過反射を生じ、危険な高血圧を来すことがある。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「単純な筋肉痛」に対応する説明で、判断対象「起立性低血圧」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「失語」に対応する説明で、判断対象「起立性低血圧」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「起立性低血圧」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「自律神経過反射」に対応する説明で、判断対象「起立性低血圧」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。起立性低血圧では血圧が低下する。判断対象は「起立性低血圧」。自律神経過反射は緊急対応が必要で、原因刺激の除去と医療評価が重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q042

神経系疾患 > 脊髄損傷 | 標準

脊髄損傷後の長期臥床で予防が重要な合併症はどれか。この論点で、選択肢「褥瘡と深部静脈血栓症」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

ア. 失語は脳病変と関連する。

イ. 虫垂炎だけを重点予防する病態ではない。

ウ. 不動、感覚障害、循環障害などにより褥瘡やDVTリスクが高くなる。

エ. 白内障だけが主要合併症ではない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「失語だけ」に対応する説明で、判断対象「褥瘡と深部静脈血栓症」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「虫垂炎だけ」に対応する説明で、判断対象「褥瘡と深部静脈血栓症」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「褥瘡と深部静脈血栓症」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「白内障だけ」に対応する説明で、判断対象「褥瘡と深部静脈血栓症」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。不動、感覚障害、循環障害などにより褥瘡やDVTリスクが高くなる。判断対象は「褥瘡と深部静脈血栓症」。脊髄損傷では皮膚、呼吸、循環、排泄、骨関節、疼痛など多系統の合併症予防が必要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q043

神経系疾患 > 末梢神経・神経筋疾患 | 基礎

橈骨神経障害でみられやすいのはどれか。この論点で、選択肢「鷲手のみ」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 猿手は正中神経障害と関連する。
- イ. 手関節・指伸筋麻痺により下垂手を生じ得る。
- ウ. 鷲手は尺骨神経障害と関連する。
- エ. 股外転筋機能低下の徴候である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「猿手のみ」に対応する説明で、判断対象「鷲手のみ」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「下垂手」に対応する説明で、判断対象「鷲手のみ」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「鷲手のみ」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「Trendelenburg徴候」に対応する説明で、判断対象「鷲手のみ」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。鷲手は尺骨神経障害と関連する。判断対象は「鷲手のみ」。末梢神経障害は支配筋・感覚領域・反射を組み合わせると局在を推定する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q044

神経系疾患 > 末梢神経・神経筋疾患 | 標準

夜間に母指・示指・中指を中心としたしびれが増悪し、母指対立も低下している。手根管部で圧迫されている可能性が最も高い神経はどれか。この論点で、選択肢「正中神経」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 尺骨神経は手根管ではなくGuyon管などで障害されることがある。
- イ. 腋窩神経は主に三角筋などを支配し、手根管を通らない。
- ウ. 長胸神経は前鋸筋を支配し、手根管を通らない。
- エ. 正中神経は手根管内を通り、手根管症候群で圧迫される。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「尺骨神経」に対応する説明で、判断対象「正中神経」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「腋窩神経」に対応する説明で、判断対象「正中神経」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「長胸神経」に対応する説明で、判断対象「正中神経」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「正中神経」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。正中神経は手根管内を通り、手根管症候群で圧迫される。判断対象は「正中神経」。手根管症候群は正中神経の絞扼性ニューロパチーである。感覚分布と母指対立などの運動機能を組み合わせると局在を推定しやすい。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q045

神経系疾患 > 末梢神経・神経筋疾患 | 標準

尺骨神経障害で目立ちやすい機能低下はどれか。この論点で、選択肢「手関節背屈のみ」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 膝伸展は大腿神経支配である。
- イ. 骨間筋は尺骨神経支配で、指外転・内転に重要である。
- ウ. 肩外転は腋窩神経などが関与する。
- エ. 手関節背屈は主に橈骨神経支配筋が担う。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「膝伸展のみ」に対応する説明で、判断対象「手関節背屈のみ」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「指の外転・内転」に対応する説明で、判断対象「手関節背屈のみ」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「肩外転のみ」に対応する説明で、判断対象「手関節背屈のみ」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「手関節背屈のみ」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。手関節背屈は主に橈骨神経支配筋が担う。判断対象は「手関節背屈のみ」。尺骨神経障害では骨間筋・小指球筋などの手内在筋障害により巧緻性が低下する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q046

神経系疾患 > 末梢神経・神経筋疾患 | 基礎

Guillain-Barré症候群で典型的なのはどれか。この論点で、選択肢「急性に進行する左右対称性の筋力低下と腱反射低下」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. Parkinson病の特徴に近い。
- イ. 末梢神経の免疫性疾患である。
- ウ. GBSでは急性・亜急性に左右対称性筋力低下が進行し、腱反射低下・消失を伴いやすい。
- エ. GBSの典型ではない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「安静時振戦のみ」に対応する説明で、判断対象「急性に進行する左右対称性の筋力低下と腱反射低下」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「関節軟骨変性のみ」に対応する説明で、判断対象「急性に進行する左右対称性の筋力低下と腱反射低下」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「急性に進行する左右対称性の筋力低下と腱反射低下」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「片側上肢だけの慢性筋強剛」に対応する説明で、判断対象「急性に進行する左右対称性の筋力低下と腱反射低下」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。GBSでは急性・亜急性に左右対称性筋力低下が進行し、腱反射低下・消失を伴いやすい。判断対象は「急性に進行する左右対称性の筋力低下と腱反射低下」。呼吸筋麻痺や自律神経障害を伴うことがあり、進行例では全身管理が重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q047

神経系疾患 > 末梢神経・神経筋疾患 | 応用

重症筋無力症で特徴的なのはどれか。この論点で、選択肢「痙性が必ず主症状となる」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 中枢性痙性が主症状ではない。
- イ. 神経筋接合部伝達障害により易疲労性・日内変動がみられやすい。
- ウ. 骨折を特徴とする疾患ではない。
- エ. 感覚障害が主徴ではない。

答え・4肢解説

正答：ア

- ア：正しい。これは判断対象「痙性が必ず主症状となる」が誤答となる理由を直接説明している。
- イ：誤り。これは別の選択肢「反復運動で筋力が低下し休息で改善しやすい」に対応する説明で、判断対象「痙性が必ず主症状となる」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「骨折を繰り返す」に対応する説明で、判断対象「痙性が必ず主症状となる」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「感覚障害だけが進行する」に対応する説明で、判断対象「痙性が必ず主症状となる」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。中枢性痙性が主症状ではない。判断対象は「痙性が必ず主症状となる」。眼瞼下垂、複視、嚥下・呼吸筋症状などがみられることがあり、疲労の変動を把握することが重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q048

神経系疾患 > 外傷性脳損傷・脳腫瘍 | 標準

高速交通外傷などで回転加速度が加わり、広範な軸索損傷を生じる病態はどれか。この論点で、選択肢「びまん性軸索損傷」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 急激な回転・剪断力により脳白質などの軸索が広範に損傷される。
- イ. 正中神経絞扼障害である。
- ウ. 自己免疫性関節炎である。
- エ. 関節疾患である。

答え・4肢解説

正答：ア

- ア：正しい。これは判断対象「びまん性軸索損傷」が正答となる理由を直接説明している。
- イ：誤り。これは別の選択肢「手根管症候群」に対応する説明で、判断対象「びまん性軸索損傷」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「関節リウマチ」に対応する説明で、判断対象「びまん性軸索損傷」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「変形性膝関節症」に対応する説明で、判断対象「びまん性軸索損傷」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。急激な回転・剪断力により脳白質などの軸索が広範に損傷される。判断対象は「びまん性軸索損傷」。びまん性軸索損傷では意識障害が強い一方、画像所見が初期に限定的なこともある。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q049

神経系疾患 > 外傷性脳損傷・脳腫瘍 | 応用

頭部外傷後に意識レベルが低下し、嘔吐と瞳孔不同が出現した。最も優先して疑うべき病態はどれか。この論点で、選択肢「末梢神経障害のみ」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 神経学的急変を説明できない。
- イ. 意識低下、嘔吐、瞳孔不同は頭蓋内圧亢進や脳ヘルニア進行を示す危険徴候となり得る。
- ウ. 関節疾患ではない。
- エ. 末梢神経障害だけでは説明できない。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「単純な筋肉痛」に対応する説明で、判断対象「末梢神経障害のみ」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「頭蓋内圧亢進を伴う頭蓋内病変」に対応する説明で、判断対象「末梢神経障害のみ」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「変形性関節症」に対応する説明で、判断対象「末梢神経障害のみ」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「末梢神経障害のみ」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。末梢神経障害だけでは説明できない。判断対象は「末梢神経障害のみ」。頭部外傷後の神経学的悪化は緊急評価が必要で、リハビリテーション継続より安全確保を優先する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q050

神経系疾患 > 外傷性脳損傷・脳腫瘍 | 標準

前頭葉に発生した脳腫瘍でみられやすい変化はどれか。この論点で、選択肢「遂行機能や人格・行動の変化」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 関節疾患ではない。
- イ. 聴覚症状だけに限定されない。
- ウ. 末梢神経疾患の所見である。
- エ. 前頭葉病変では遂行機能、発動性、社会的行動、人格などが変化し得る。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「足関節軟骨変性のみ」に対応する説明で、判断対象「遂行機能や人格・行動の変化」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「感音性難聴だけ」に対応する説明で、判断対象「遂行機能や人格・行動の変化」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「末梢神経の伝導速度低下だけ」に対応する説明で、判断対象「遂行機能や人格・行動の変化」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「遂行機能や人格・行動の変化」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。前頭葉病変では遂行機能、発動性、社会的行動、人格などが変化し得る。判断対象は「遂行機能や人格・行動の変化」。脳腫瘍の症状は部位、増大速度、浮腫、頭蓋内圧などで異なるため、局在症状と全般症状を分けて考える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q051

運動器疾患・疼痛 > 骨折・脱臼・靱帯損傷 | 基礎

骨折を疑う所見として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「失語のみ」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 視野欠損は中枢神経疾患で見られる。
- イ. 骨折では疼痛、腫脹、変形、圧痛、機能障害などがみられ得る。
- ウ. 安静時振戦はParkinson病などでみられる。
- エ. 失語は大脳言語野障害で見られる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「視野欠損のみ」に対応する説明で、判断対象「失語のみ」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「局所の疼痛・腫脹・変形や機能障害」に対応する説明で、判断対象「失語のみ」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「安静時振戦のみ」に対応する説明で、判断対象「失語のみ」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「失語のみ」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。失語は大脳言語野障害で見られる。判断対象は「失語のみ」。骨折が疑われる場合は無理な運動を避け、画像評価と固定・整復などの適切な治療へつなげる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q052

運動器疾患・疼痛 > 骨折・脱臼・靱帯損傷 | 標準

高齢者が転倒後に股関節周囲痛を訴え、患肢を動かさない。大腿骨頸部骨折を疑う理由として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「高齢者の転倒で生じやすく、歩行不能や股関節痛を来し得る」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 疼痛が主要症状となる。
- イ. 骨粗鬆症を背景とする高齢者では転倒による大腿骨近位部骨折が重要である。
- ウ. 下肢荷重機能へ大きく影響する。
- エ. 高齢者の低エネルギー転倒でも生じる。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「感覚障害だけで疼痛は生じない」に対応する説明で、判断対象「高齢者の転倒で生じやすく、歩行不能や股関節痛を来し得る」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「高齢者の転倒で生じやすく、歩行不能や股関節痛を来し得る」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「上肢麻痺だけを生じる」に対応する説明で、判断対象「高齢者の転倒で生じやすく、歩行不能や股関節痛を来し得る」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「必ず若年者の高エネルギー外傷でしか起こらない」に対応する説明で、判断対象「高齢者の転倒で生じやすく、歩行不能や股関節痛を来し得る」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。骨粗鬆症を背景とする高齢者では転倒による大腿骨近位部骨折が重要である。判断対象は「高齢者の転倒で生じやすく、歩行不能や股関節痛を来し得る」。高齢者の転倒後に股関節痛や荷重不能があれば、大腿骨近位部骨折を念頭に置く。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q053

運動器疾患・疼痛 > 骨折・脱臼・靱帯損傷 | 標準

肩関節前方脱臼後に三角筋部の感覚低下と肩外転筋力低下がみられた。障害が疑われる神経はどれか。この論点で、選択肢「脛骨神経」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 顔面神経は顔面筋などを支配する。
- イ. 腋窩神経は肩関節前方脱臼で損傷されることがあり、三角筋機能と上外側上腕感覚に関与する。
- ウ. 脛骨神経は下肢の神経である。
- エ. 正中神経は前腕・手部に関与する。

答え・4肢解説

正答：ウ

- ア：誤り。これは別の選択肢「顔面神経」に対応する説明で、判断対象「脛骨神経」の直接の根拠ではない。
- イ：誤り。これは別の選択肢「腋窩神経」に対応する説明で、判断対象「脛骨神経」の直接の根拠ではない。
- ウ：正しい。これは判断対象「脛骨神経」が誤答となる理由を直接説明している。
- エ：誤り。これは別の選択肢「正中神経」に対応する説明で、判断対象「脛骨神経」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。脛骨神経は下肢の神経である。判断対象は「脛骨神経」。脱臼後は整復だけでなく末梢循環・感覚・筋力を確認して神経血管損傷を評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q054

運動器疾患・疼痛 > 骨折・脱臼・靱帯損傷 | 標準

前十字靱帯 ACL 損傷が起こりやすい状況はどれか。この論点で、選択肢「着地や方向転換時に膝が捻られる」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 安静だけで典型的急性ACL損傷は起こらない。
- イ. 前腕回外は上肢運動である。
- ウ. 手関節運動はACLと関係しない。
- エ. ACL損傷はジャンプ着地、急停止、方向転換など非接触・接触の捻り動作で生じ得る。

答え・4肢解説

正答：エ

- ア：誤り。これは別の選択肢「安静臥床のみ」に対応する説明で、判断対象「着地や方向転換時に膝が捻られる」の直接の根拠ではない。
- イ：誤り。これは別の選択肢「前腕を回外する」に対応する説明で、判断対象「着地や方向転換時に膝が捻られる」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「手関節を軽く背屈する」に対応する説明で、判断対象「着地や方向転換時に膝が捻られる」の直接の根拠ではない。
- エ：正しい。これは判断対象「着地や方向転換時に膝が捻られる」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。ACL損傷はジャンプ着地、急停止、方向転換など非接触・接触の捻り動作で生じ得る。判断対象は「着地や方向転換時に膝が捻られる」。ACL損傷では膝不安定感、腫脹、疼痛などがみられ、他の靱帯・半月板損傷も評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q055

運動器疾患・疼痛 > 骨折・脱臼・靱帯損傷 | 標準

足関節外側靱帯損傷が生じやすい受傷機転はどれか。この論点で、選択肢「肩関節外旋」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 肩関節運動ではない。
- イ. 肘関節運動ではない。
- ウ. 足関節外側靱帯損傷は内反捻挫で生じやすく、前距腓靱帯などが障害される。
- エ. 頸部運動ではない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「肩関節外旋」が誤答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「肘関節屈曲」に対応する説明で、判断対象「肩関節外旋」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「足関節内反方向への捻り」に対応する説明で、判断対象「肩関節外旋」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「頸部回旋」に対応する説明で、判断対象「肩関節外旋」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。肩関節運動ではない。判断対象は「肩関節外旋」。足関節捻挫では骨折の有無、腫脹、圧痛、荷重能力、不安定性を評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q056

運動器疾患・疼痛 > 骨折・脱臼・靱帯損傷 | 応用

下腿骨折後、鎮痛薬でも改善しにくい強い疼痛と他動的筋伸張時痛が増悪している。最も疑うべき病態はどれか。この論点で、選択肢「急性コンパートメント症候群」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 進行性で強い疼痛を単純筋痛として扱うのは危険である。
- イ. 骨折後の不釣合いな強い疼痛や他動伸張痛は急性コンパートメント症候群を疑う重要所見である。
- ウ. 手関節の絞扼性神経障害ではない。
- エ. 中枢神経変性疾患ではない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「単純な筋肉痛」に対応する説明で、判断対象「急性コンパートメント症候群」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「急性コンパートメント症候群」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「手根管症候群」に対応する説明で、判断対象「急性コンパートメント症候群」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「Parkinson病」に対応する説明で、判断対象「急性コンパートメント症候群」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。骨折後の不釣合いな強い疼痛や他動伸張痛は急性コンパートメント症候群を疑う重要所見である。判断対象は「急性コンパートメント症候群」。急性コンパートメント症候群は筋・神経の虚血性障害を来し得る緊急病態で、速やかな医療評価が必要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q057

運動器疾患・疼痛 > 変形性関節症・関節リウマチ | 基礎

変形性関節症 OA について正しいのはどれか。この論点で、選択肢「自己免疫性滑膜炎だけで定義される」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

ア. OAは関節軟骨を含む関節組織の変性・構造変化を特徴とする。

イ. 自己免疫性滑膜炎を中心とするのはRAである。

ウ. MSなどの説明である。

エ. 手根管症候群などの説明である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「関節軟骨を含む関節組織が変性する疾患である」に対応する説明で、判断対象「自己免疫性滑膜炎だけで定義される」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「自己免疫性滑膜炎だけで定義される」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「中枢神経の脱髄疾患である」に対応する説明で、判断対象「自己免疫性滑膜炎だけで定義される」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「末梢神経絞扼疾患である」に対応する説明で、判断対象「自己免疫性滑膜炎だけで定義される」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。自己免疫性滑膜炎を中心とするのはRAである。判断対象は「自己免疫性滑膜炎だけで定義される」。OAでは疼痛、短時間のこわばり、可動域制限、筋力低下などが活動制限につながる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q058

運動器疾患・疼痛 > 変形性関節症・関節リウマチ | 基礎

変形性関節症でみられやすい症状はどれか。この論点で、選択肢「活動に伴う関節痛と、休止後の比較的短いこわばり」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

ア. OAでは荷重・活動時痛や、休止後の短いこわばりがみられやすい。

イ. Parkinson病などでみられる。

ウ. 長時間の朝のこわばりは炎症性関節炎でより典型的である。

エ. 中枢神経症状である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「活動に伴う関節痛と、休止後の比較的短いこわばり」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「安静時振戦」に対応する説明で、判断対象「活動に伴う関節痛と、休止後の比較的短いこわばり」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「数時間続く強い朝のこわばりだけが必須」に対応する説明で、判断対象「活動に伴う関節痛と、休止後の比較的短いこわばり」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「失語」に対応する説明で、判断対象「活動に伴う関節痛と、休止後の比較的短いこわばり」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。OAでは荷重・活動時痛や、休止後の短いこわばりがみられやすい。判断対象は「活動に伴う関節痛と、休止後の比較的短いこわばり」。OAの症状は関節部位、病期、筋力、活動量などで変化する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q059

運動器疾患・疼痛 > 変形性関節症・関節リウマチ | 基礎

関節リウマチ RA について正しいのはどれか。この論点で、選択肢「外傷性脱臼だけを指す」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. これはOAの一側面に近い。
- イ. 外傷疾患ではない。
- ウ. 感染症そのものではない。
- エ. RAは免疫系が自己組織を攻撃する慢性炎症性疾患で、滑膜炎を中心に関節障害を生じる。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「関節軟骨の加齢変性だけで生じる」に対応する説明で、判断対象「外傷性脱臼だけを指す」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「外傷性脱臼だけを指す」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「感染症そのものである」に対応する説明で、判断対象「外傷性脱臼だけを指す」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「自己免疫機序による慢性炎症性疾患である」に対応する説明で、判断対象「外傷性脱臼だけを指す」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。外傷疾患ではない。判断対象は「外傷性脱臼だけを指す」。RAは関節だけでなく全身症状や関節外病変を伴うことがある。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q060

運動器疾患・疼痛 > 変形性関節症・関節リウマチ | 基礎

関節リウマチでみられやすいのはどれか。この論点で、選択肢「手関節・手指などの左右対称性関節炎」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 単一外傷性疼痛だけではRAを説明できない。
- イ. RAは手・手関節・足などの小関節を左右対称に侵すことが多い。
- ウ. Parkinson病の症状である。
- エ. 脳・視路病変の症状である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「片側膝の外傷後疼痛だけ」に対応する説明で、判断対象「手関節・手指などの左右対称性関節炎」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「手関節・手指などの左右対称性関節炎」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「安静時振戦だけ」に対応する説明で、判断対象「手関節・手指などの左右対称性関節炎」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「視野欠損だけ」に対応する説明で、判断対象「手関節・手指などの左右対称性関節炎」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。RAは手・手関節・足などの小関節を左右対称に侵すことが多い。判断対象は「手関節・手指などの左右対称性関節炎」。RAでは疼痛、腫脹、熱感、朝のこわばり、疲労などが活動・参加に影響する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q061

運動器疾患・疼痛 > 変形性関節症・関節リウマチ | 標準

関節リウマチの診断について正しいのはどれか。この論点で、選択肢「RF陽性だけで必ずRAと確定する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 血清反応陰性RAも存在する。
- イ. RFは他疾患や健康者でも陽性となり得る。
- ウ. 画像は関節障害評価などに用いられる。
- エ. RAは臨床所見と複数検査を組み合わせで診断する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「RF陰性ならRAを完全否定できる」に対応する説明で、判断対象「RF陽性だけで必ずRAと確定する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「RF陽性だけで必ずRAと確定する」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「画像検査は一切不要である」に対応する説明で、判断対象「RF陽性だけで必ずRAと確定する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「RFや抗CCP抗体だけでなく、症状・診察・炎症反応・画像などを総合する」に対応する説明で、判断対象「RF陽性だけで必ずRAと確定する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。RFは他疾患や健康者でも陽性となり得る。判断対象は「RF陽性だけで必ずRAと確定する」。検査値の感度・特異度と限界を理解し、単一検査のみで診断を断定しないことが重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q062

運動器疾患・疼痛 > 変形性関節症・関節リウマチ | 応用

関節リウマチ患者の作業指導として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「疼痛・炎症・変形リスクを考慮し、関節保護や作業方法の調整を行う」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 炎症や疼痛を増悪させる可能性がある。
- イ. 関節保護、負荷分散、省エネルギー、自助具などを症状と生活課題に合わせて検討する。
- ウ. 自助具は作業負担軽減に有用な場合がある。
- エ. 高負荷集中は関節負担を増やす。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「疼痛が強くても常に最大握力を反復させる」に対応する説明で、判断対象「疼痛・炎症・変形リスクを考慮し、関節保護や作業方法の調整を行う」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「疼痛・炎症・変形リスクを考慮し、関節保護や作業方法の調整を行う」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「自助具は一切使用しない」に対応する説明で、判断対象「疼痛・炎症・変形リスクを考慮し、関節保護や作業方法の調整を行う」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「炎症関節へ高負荷を集中させる」に対応する説明で、判断対象「疼痛・炎症・変形リスクを考慮し、関節保護や作業方法の調整を行う」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。関節保護、負荷分散、省エネルギー、自助具などを症状と生活課題に合わせて検討する。判断対象は「疼痛・炎症・変形リスクを考慮し、関節保護や作業方法の調整を行う」。RAの作業療法では疾患活動性と関節状態を踏まえ、機能維持と生活参加の両立を図る。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q063

運動器疾患・疼痛 > 手外科・腱・末梢神経損傷 | 標準

DIP関節を自動伸展できず、末節骨が屈曲位となる槌指 *mallet finger* で障害されるのはどれか。この論点で、選択肢「深指屈筋だけ」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 深指屈筋障害ではDIP屈曲が低下する。
- イ. 母指筋である。
- ウ. 手関節尺屈に関与する。
- エ. 終末伸筋腱の断裂・停止部剥離などでDIP自動伸展が困難になる。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「深指屈筋だけ」が誤答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「母指内転筋」に対応する説明で、判断対象「深指屈筋だけ」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「尺側手根屈筋」に対応する説明で、判断対象「深指屈筋だけ」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「終末伸筋腱」に対応する説明で、判断対象「深指屈筋だけ」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。深指屈筋障害ではDIP屈曲が低下する。判断対象は「深指屈筋だけ」。槌指ではDIP関節伸展機構を保護しながら治癒を図ることが重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q064

運動器疾患・疼痛 > 手外科・腱・末梢神経損傷 | 標準

ボタン穴変形 *boutonnière deformity* の典型的肢位はどれか。この論点で、選択肢「PIP屈曲・DIP過伸展」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. これはスワンネック変形の典型である。
- イ. ボタン穴変形の特徴ではない。
- ウ. 中央索障害などによりPIP屈曲とDIP過伸展を呈する。
- エ. 変形を表していない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「PIP過伸展・DIP屈曲」に対応する説明で、判断対象「PIP屈曲・DIP過伸展」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「MCP屈曲のみ」に対応する説明で、判断対象「PIP屈曲・DIP過伸展」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「PIP屈曲・DIP過伸展」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「全指完全伸展」に対応する説明で、判断対象「PIP屈曲・DIP過伸展」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。中央索障害などによりPIP屈曲とDIP過伸展を呈する。判断対象は「PIP屈曲・DIP過伸展」。伸筋腱膜は複雑な連結構造を持つため、損傷部位でPIP・DIPの姿勢が特徴的に変化する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q065

運動器疾患・疼痛 > 手外科・腱・末梢神経損傷 | 応用

手関節部で正中神経が重度に障害された場合、低下しやすい機能はどれか。この論点で、選択肢「手関節伸展だけ」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 肩外転は腋窩神経などが関与する。
- イ. 手関節伸展は主に橈骨神経支配である。
- ウ. 指外転・内転は主に尺骨神経支配の骨間筋が担う。
- エ. 正中神経支配の母指球筋が障害されると母指対立が低下する。

OT03 Q066

運動器疾患・疼痛 > 手外科・腱・末梢神経損傷 | 応用

屈筋腱縫合術後の作業療法で最も重要な考え方はどれか。この論点で、選択肢「修復腱の保護と癒着予防のバランスを取り、術式に応じたプロトコルを守る」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 術後早期は再断裂リスクを考慮する。
- イ. 術式と医師・チームの指示に基づく必要がある。
- ウ. 過大負荷は再断裂リスクを高める。
- エ. 修復強度と治癒時期を踏まえ、保護しながら適切な腱滑走を促す。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「肩外転だけ」に対応する説明で、判断対象「手関節伸展だけ」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「手関節伸展だけ」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「指の外転・内転だけ」に対応する説明で、判断対象「手関節伸展だけ」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「母指対立」に対応する説明で、判断対象「手関節伸展だけ」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。手関節伸展は主に橈骨神経支配である。判断対象は「手関節伸展だけ」。手外科では腱損傷だけでなく神経損傷による知覚・運動障害を作業機能と結び付けて評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「腱断裂リスクはないと考える」に対応する説明で、判断対象「修復腱の保護と癒着予防のバランスを取り、術式に応じたプロトコルを守る」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「固定期間中は医師指示を無視する」に対応する説明で、判断対象「修復腱の保護と癒着予防のバランスを取り、術式に応じたプロトコルを守る」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「術翌日から抵抗最大で握力訓練する」に対応する説明で、判断対象「修復腱の保護と癒着予防のバランスを取り、術式に応じたプロトコルを守る」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「修復腱の保護と癒着予防のバランスを取り、術式に応じたプロトコルを守る」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。修復強度と治癒時期を踏まえ、保護しながら適切な腱滑走を促す。判断対象は「修復腱の保護と癒着予防のバランスを取り、術式に応じたプロトコルを守る」。腱修復後は『動かさなさすぎによる癒着』と『動かしすぎによる再断裂』の双方を避ける管理が重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q067

運動器疾患・疼痛 > 切断 | 基礎

切断後、失われた手がまだ存在するように感じるが痛みはない。この現象はどれか。この論点で、選択肢「末梢浮腫のみ」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 失われた四肢の存在感や位置感覚など、痛みを伴わない感覚は幻肢感覚である。
- イ. 浮腫の説明ではない。
- ウ. CRPSとは異なる。
- エ. 幻肢痛は失われた四肢に感じる疼痛を指す。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「幻肢感覚」に対応する説明で、判断対象「末梢浮腫のみ」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「末梢浮腫のみ」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「CRPSのみ」に対応する説明で、判断対象「末梢浮腫のみ」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「幻肢痛」に対応する説明で、判断対象「末梢浮腫のみ」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。浮腫の説明ではない。判断対象は「末梢浮腫のみ」。幻肢感覚は切断後に比較的良好にみられ、幻肢痛とは分けて評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q068

運動器疾患・疼痛 > 切断 | 応用

大腿切断後に予防が重要な拘縮はどれか。この論点で、選択肢「股関節屈曲拘縮」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 大腿切断では長時間の座位・屈曲位により股関節屈曲拘縮を生じやすい。
- イ. 手指関節だけの問題ではない。
- ウ. 上肢関節だけの問題ではない。
- エ. 頸椎だけの問題ではない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「股関節屈曲拘縮」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「手指屈曲拘縮だけ」に対応する説明で、判断対象「股関節屈曲拘縮」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「肘関節屈曲拘縮だけ」に対応する説明で、判断対象「股関節屈曲拘縮」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「頸椎回旋拘縮だけ」に対応する説明で、判断対象「股関節屈曲拘縮」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。大腿切断では長時間の座位・屈曲位により股関節屈曲拘縮を生じやすい。判断対象は「股関節屈曲拘縮」。義足適合や歩行に備え、切断高位に応じた関節可動域保持と適切な肢位管理が重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q069

運動器疾患・疼痛 > 切断 | 応用

切断後の断端管理の目的として適切なものはどれか。この論点で、選択肢「創治癒前から高負荷で荷重する」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 断端管理では浮腫・形状・創・皮膚・疼痛を評価し義肢装着へ備える。
- イ. 過度の圧迫による循環障害は避ける。
- ウ. 創状態と医療指示を無視した負荷は危険である。
- エ. 皮膚トラブルの早期発見が重要である。

OT03 Q070

運動器疾患・疼痛 > 慢性疼痛・CRPS | 標準

慢性疼痛について適切なものはどれか。この論点で、選択肢「組織損傷の程度だけでは説明できず、生物・心理・社会的要因が関与し得る」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 心理社会的要因も痛み体験と機能へ影響し得る。
- イ. 画像所見と痛み強度が一致しない場合がある。
- ウ. 過度な活動回避は廃用や恐怖回避を強める場合がある。
- エ. 慢性疼痛は末梢・中枢の感作、心理、行動、社会環境など多因子で持続することがある。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「浮腫を管理し、皮膚状態を保ちながら義肢装着に適した形状を整える」に対応する説明で、判断対象「創治癒前から高負荷で荷重する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「断端を常に強く圧迫して血流を止める」に対応する説明で、判断対象「創治癒前から高負荷で荷重する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「創治癒前から高負荷で荷重する」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「皮膚観察を行わない」に対応する説明で、判断対象「創治癒前から高負荷で荷重する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。創状態と医療指示を無視した負荷は危険である。判断対象は「創治癒前から高負荷で荷重する」。義肢リハビリテーションでは断端成熟、可動域、筋力、疼痛、皮膚状態を総合して進める。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「心理社会的要因は一切関係しない」に対応する説明で、判断対象「組織損傷の程度だけでは説明できず、生物・心理・社会的要因が関与し得る」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「痛みは必ず画像所見の大きさと比例する」に対応する説明で、判断対象「組織損傷の程度だけでは説明できず、生物・心理・社会的要因が関与し得る」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「活動回避は常に長期予後を改善する」に対応する説明で、判断対象「組織損傷の程度だけでは説明できず、生物・心理・社会的要因が関与し得る」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「組織損傷の程度だけでは説明できず、生物・心理・社会的要因が関与し得る」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。慢性疼痛は末梢・中枢の感作、心理、行動、社会環境など多因子で持続することがある。判断対象は「組織損傷の程度だけでは説明できず、生物・心理・社会的要因が関与し得る」。慢性疼痛では疼痛強度だけでなく、睡眠、活動、気分、役割、恐怖回避などを含めて評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q071

運動器疾患・疼痛 > 慢性疼痛・CRPS | 基礎

CRPS complex regional pain syndrome の特徴として正しいのはどれか。この論点で、選択肢「関節変形だけで診断される」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 疼痛分布は特定の皮膚分節や単一神経領域に限定されない。
- イ. 関節変形だけで診断する病態ではない。
- ウ. 浮腫、皮膚温・色、発汗、可動域、栄養性変化などを伴い得る。
- エ. CRPSは不釣り合いな地域性疼痛と多様な感覚・自律神経・運動・栄養性所見を特徴とする。

OT03 Q072

運動器疾患・疼痛 > 慢性疼痛・CRPS | 基礎

通常は痛みを生じない軽い接触刺激で痛みを感じる現象はどれか。この論点で、選択肢「アロディニア」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 麻酔は感覚が低下・消失した状態を指す。
- イ. アロディニアは本来非侵害性の刺激によって痛みが誘発される状態である。
- ウ. 言語障害である。
- エ. 不随意運動である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「必ず単一末梢神経の支配域だけに一致する」に対応する説明で、判断対象「関節変形だけで診断される」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「関節変形だけで診断される」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「疼痛以外の症状は起こらない」に対応する説明で、判断対象「関節変形だけで診断される」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「通常の組織損傷経過からみて不釣り合いな持続性局所痛に、感覚・血管運動・発汗・運動・栄養性変化などを伴い得る」に対応する説明で、判断対象「関節変形だけで診断される」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。関節変形だけで診断する病態ではない。判断対象は「関節変形だけで診断される」。CRPSでは早期から疼痛だけでなく腫脹、皮膚変化、運動機能、活動制限を包括的に評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「麻酔」に対応する説明で、判断対象「アロディニア」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「アロディニア」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「失語」に対応する説明で、判断対象「アロディニア」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「振戦」に対応する説明で、判断対象「アロディニア」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。アロディニアは本来非侵害性の刺激によって痛みが誘発される状態である。判断対象は「アロディニア」。アロディニアや痛覚過敏はCRPSを含む神経障害性・感作性疼痛の評価で重要な感覚所見である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q073

精神医学・臨床心理 > 統合失調症 | 基礎

統合失調症の陽性症状に含まれるのはどれか。この論点で、選択肢「意欲低下」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 感情鈍麻は陰性症状として扱われる。
- イ. 意欲低下も陰性症状の一つである。
- ウ. 社会的引きこもりは陰性症状や機能障害に関連することがある。
- エ. 幻覚や妄想などは陽性症状に含まれる。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「感情鈍麻」に対応する説明で、判断対象「意欲低下」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「意欲低下」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「社会的引きこもり」に対応する説明で、判断対象「意欲低下」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「幻覚」に対応する説明で、判断対象「意欲低下」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。意欲低下も陰性症状の一つである。判断対象は「意欲低下」。統合失調症では陽性症状、陰性症状、認知機能障害などが生活機能に影響する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q074

精神医学・臨床心理 > 統合失調症 | 基礎

統合失調症の陰性症状として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「意欲低下」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 意欲低下は陰性症状の代表例である。
- イ. 幻聴は陽性症状である。
- ウ. 被害妄想は陽性症状である。
- エ. 思考伝播は妄想的体験に含まれる。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「意欲低下」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「幻聴」に対応する説明で、判断対象「意欲低下」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「被害妄想」に対応する説明で、判断対象「意欲低下」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「思考伝播」に対応する説明で、判断対象「意欲低下」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。意欲低下は陰性症状の代表例である。判断対象は「意欲低下」。陰性症状は日常生活の開始・持続、対人交流、役割遂行に大きく影響する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q075

精神医学・臨床心理 > 統合失調症 | 標準

抗精神病薬使用中に、動作緩慢、筋強剛、振戦が出現した。薬剤性有害事象として最も考えやすいのはどれか。この論点で、選択肢「末梢神経断裂」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 症状の組合せからは薬剤性Parkinson症候群をまず考える。
- イ. 言語中枢障害ではない。
- ウ. 神経断裂ではない。
- エ. ドパミン遮断作用をもつ抗精神病薬では薬剤性Parkinson症候群などの錐体外路症状が生じ得る。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「セロトニン症候群だけ」に対応する説明で、判断対象「末梢神経断裂」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「失語」に対応する説明で、判断対象「末梢神経断裂」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「末梢神経断裂」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「薬剤性Parkinson症候群」に対応する説明で、判断対象「末梢神経断裂」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。神経断裂ではない。判断対象は「末梢神経断裂」。薬物療法中の作業療法では、症状そのものと薬剤副作用を区別して観察し、必要時に医療チームへ共有する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q076

精神医学・臨床心理 > 統合失調症 | 標準

安定していた統合失調症患者に、数日前から不眠、活動性低下、対人回避の増加がみられる。最も適切な対応はどれか。この論点で、選択肢「再発の前駆兆候の可能性を考え、本人の状態を確認して支援チームと共有する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 睡眠・活動・対人行動の変化は再発前にみられることがあり、早期の情報共有が有用である。
- イ. 過剰負荷は悪化につながる可能性がある。
- ウ. 薬剤調整は医師と相談すべきである。
- エ. 症状変化を性格や怠慢だけで説明しない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「再発の前駆兆候の可能性を考え、本人の状態を確認して支援チームと共有する」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「症状を無視して作業量を倍増する」に対応する説明で、判断対象「再発の前駆兆候の可能性を考え、本人の状態を確認して支援チームと共有する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「服薬を自己判断で中止しよう勤める」に対応する説明で、判断対象「再発の前駆兆候の可能性を考え、本人の状態を確認して支援チームと共有する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「必ず怠慢と判断する」に対応する説明で、判断対象「再発の前駆兆候の可能性を考え、本人の状態を確認して支援チームと共有する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。睡眠・活動・対人行動の変化は再発前にみられることがあり、早期の情報共有が有用である。判断対象は「再発の前駆兆候の可能性を考え、本人の状態を確認して支援チームと共有する」。再発予防では本人固有の早期警告サイン、服薬、睡眠、ストレス、支援体制を把握する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q077

精神医学・臨床心理 > 統合失調症 | 応用

地域生活を送る統合失調症患者へのリハビリ志向の支援として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「失敗を避けるため全ての作業を代行する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. リハビリ志向では本人の希望・選択・強み・社会参加を重視する。
- イ. 過剰な代行は自律性や役割獲得を妨げることがある。
- ウ. 症状が残っていても意味ある生活や参加を支援できる。
- エ. 共同意思決定が重要である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「本人が望む生活や役割を確認し、強みを生かした目標を共同で設定する」に対応する説明で、判断対象「失敗を避けるため全ての作業を代行する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「失敗を避けるため全ての作業を代行する」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「症状が完全消失するまで社会参加を禁止する」に対応する説明で、判断対象「失敗を避けるため全ての作業を代行する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「支援者が本人の希望を聞かず目標を決める」に対応する説明で、判断対象「失敗を避けるため全ての作業を代行する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。過剰な代行は自律性や役割獲得を妨げることがある。判断対象は「失敗を避けるため全ての作業を代行する」。精神科作業療法では症状軽減だけでなく、本人が価値を置く生活の再構築を支援する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q078

精神医学・臨床心理 > 気分障害 | 基礎

うつ病でみられやすい症状はどれか。この論点で、選択肢「抑うつ気分や興味・喜びの低下」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 身体症状だけで定義されない。
- イ. 抑うつ気分や興味・喜びの低下はうつ病の中核症状である。
- ウ. 安静時振戦はParkinson病などでみられる。
- エ. 幻覚は必須症状ではない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「筋力低下だけ」に対応する説明で、判断対象「抑うつ気分や興味・喜びの低下」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「抑うつ気分や興味・喜びの低下」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「安静時振戦だけ」に対応する説明で、判断対象「抑うつ気分や興味・喜びの低下」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「幻覚だけが必須」に対応する説明で、判断対象「抑うつ気分や興味・喜びの低下」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。抑うつ気分や興味・喜びの低下はうつ病の中核症状である。判断対象は「抑うつ気分や興味・喜びの低下」。うつ病では睡眠、食欲、集中力、活動性、自責感など多面的な変化が生じ得る。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q079

精神医学・臨床心理 > 気分障害 | 基礎

躁病エピソードでみられやすいのはどれか。この論点で、選択肢「失語のみ」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 躁状態の典型ではない。
- イ. 言語野障害ではない。
- ウ. 記憶障害だけではない。
- エ. 気分高揚・易刺激性、睡眠欲求低下、多弁、活動性亢進などがみられる。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「持続する動作緩慢だけ」に対応する説明で、判断対象「失語のみ」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「失語のみ」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「記憶障害だけ」に対応する説明で、判断対象「失語のみ」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「睡眠欲求の低下と活動性亢進」に対応する説明で、判断対象「失語のみ」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。言語野障害ではない。判断対象は「失語のみ」。双極性障害では躁・軽躁と抑うつ経過を確認し、活動量や睡眠変化を重要な指標として捉える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q080

精神医学・臨床心理 > 気分障害 | 標準

重度の抑うつ状態にある患者が『消えてしまいたい』と話した。最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「自殺念慮や具体的計画の有無を直接確認し、安全確保と医療チームへの共有を行う」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 高リスク時に単独にするのは不適切である。
- イ. 自殺について尋ねること自体が自殺を誘発するという根拠はない。
- ウ. 自殺念慮は直接かつ落ち着いて確認し、危険度に応じて安全確保と専門的対応につなげる。
- エ. 単純な励ましだけでは不十分ことがある。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「一人にして気分転換を待つ」に対応する説明で、判断対象「自殺念慮や具体的計画の有無を直接確認し、安全確保と医療チームへの共有を行う」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「話題にすると自殺を誘発するので一切聞かない」に対応する説明で、判断対象「自殺念慮や具体的計画の有無を直接確認し、安全確保と医療チームへの共有を行う」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「自殺念慮や具体的計画の有無を直接確認し、安全確保と医療チームへの共有を行う」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「励ませば必ず改善すると考える」に対応する説明で、判断対象「自殺念慮や具体的計画の有無を直接確認し、安全確保と医療チームへの共有を行う」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。自殺念慮は直接かつ落ち着いて確認し、危険度に応じて安全確保と専門的対応につなげる。判断対象は「自殺念慮や具体的計画の有無を直接確認し、安全確保と医療チームへの共有を行う」。精神科臨床では自殺リスクを見逃さず、本人を孤立させずにチームで安全を確保する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q081

精神医学・臨床心理 > 気分障害 | 標準

重度の抑うつで意欲・集中力が低下している患者への作業療法として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「本人の選択を禁止する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 過負荷は疲労や離脱につながり得る。
- イ. 失敗の連続は自己効力感をさらに低下させ得る。
- ウ. 成功体験を得やすい適切な難易度と活動量に調整する。
- エ. 本人の希望や選択を尊重する。

OT03 Q082

精神医学・臨床心理 > 気分障害 | 応用

双極性障害の躁状態で刺激に反応しやすく、活動が次々に拡大している患者への環境調整として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「刺激を整理し、活動を構造化して休息を確保する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 過剰刺激を避け、活動範囲・時間を構造化し、睡眠と安全を確保する。
- イ. 睡眠不足は躁症状悪化に関係し得る。
- ウ. 判断力低下がある場合は金銭・契約面の安全配慮が必要である。
- エ. 刺激増加は興奮や活動過多を助長し得る。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「症状を無視して長時間活動を強制する」に対応する説明で、判断対象「本人の選択を禁止する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「失敗しやすい高難度課題を連続して行う」に対応する説明で、判断対象「本人の選択を禁止する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「達成可能な小さな課題から始め、疲労や自己評価をみながら段階づける」に対応する説明で、判断対象「本人の選択を禁止する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「本人の選択を禁止する」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。本人の希望や選択を尊重する。判断対象は「本人の選択を禁止する」。活動は治療目的だけでなく、本人の意味・興味・生活リズムを考慮して設定する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「刺激を整理し、活動を構造化して休息を確保する」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「睡眠を減らして活動時間を延長する」に対応する説明で、判断対象「刺激を整理し、活動を構造化して休息を確保する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「金銭管理を無制限に任せる」に対応する説明で、判断対象「刺激を整理し、活動を構造化して休息を確保する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「複数の競争課題を同時に増やす」に対応する説明で、判断対象「刺激を整理し、活動を構造化して休息を確保する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。過剰刺激を避け、活動範囲・時間を構造化し、睡眠と安全を確保する。判断対象は「刺激を整理し、活動を構造化して休息を確保する」。躁状態では症状に合わせて刺激量、対人距離、活動範囲、休息、安全管理を調整する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q083

精神医学・臨床心理 > ストレス関連・不安・摂食・依存 | 標準

PTSD 心的外傷後ストレス障害 でみられやすいのはどれか。この論点で、選択肢「失語だけ」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 失語を主症状としない。
- イ. Parkinson病の症状である。
- ウ. 外傷体験の再体験・侵入、回避、認知・気分変化、過覚醒などがみられる。
- エ. 整形外科的所見ではない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「失語だけ」が誤答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「安静時振戦のみ」に対応する説明で、判断対象「失語だけ」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「侵入症状、回避、過覚醒など」に対応する説明で、判断対象「失語だけ」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「関節拘縮のみ」に対応する説明で、判断対象「失語だけ」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。失語を主症状としない。判断対象は「失語だけ」。PTSD支援では安全感と本人のコントロール感を尊重し、無理に外傷体験を語らせない。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q084

精神医学・臨床心理 > ストレス関連・不安・摂食・依存 | 標準

パニック発作として最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「突然強い恐怖が高まり、動悸・息苦しさ・発汗などを伴う」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 神経筋疾患の経過に近い。
- イ. 意識消失は必須ではない。
- ウ. パニック発作は急激な強い恐怖・不快感と自律神経症状を伴う。
- エ. 不安症状の説明ではない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「数年かけて徐々に筋力だけが低下する」に対応する説明で、判断対象「突然強い恐怖が高まり、動悸・息苦しさ・発汗などを伴う」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「意識を失うことが診断に必須である」に対応する説明で、判断対象「突然強い恐怖が高まり、動悸・息苦しさ・発汗などを伴う」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「突然強い恐怖が高まり、動悸・息苦しさ・発汗などを伴う」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「疼痛を伴わない関節変形のみ」に対応する説明で、判断対象「突然強い恐怖が高まり、動悸・息苦しさ・発汗などを伴う」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。パニック発作は急激な強い恐怖・不快感と自律神経症状を伴う。判断対象は「突然強い恐怖が高まり、動悸・息苦しさ・発汗などを伴う」。身体疾患との鑑別も重要だが、発作の急激な発症と身体・認知症状の組合せを捉える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q085

精神医学・臨床心理 > ストレス関連・不安・摂食・依存 | 標準

神経性やせ症で特に注意すべき身体合併症はどれか。この論点で、選択肢「筋量の必然的増加」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 全身性の医学的リスクがある。
- イ. 著しいエネルギー不足や嘔吐・下剤乱用などで電解質異常、循環器合併症などを生じ得る。
- ウ. 筋量はむしろ減少し得る。
- エ. 低栄養が中心の問題となる。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「関節可動域増大だけ」に対応する説明で、判断対象「筋量の必然的増加」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「低栄養や電解質異常」に対応する説明で、判断対象「筋量の必然的増加」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「筋量の必然的増加」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「高栄養状態のみ」に対応する説明で、判断対象「筋量の必然的増加」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。筋量はむしろ減少し得る。判断対象は「筋量の必然的増加」。摂食障害は精神症状だけでなく生命に関わる身体合併症を伴い得るため、全身状態の評価が重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q086

精神医学・臨床心理 > ストレス関連・不安・摂食・依存 | 標準

依存症への支援として最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「再発リスクや引き金を把握し、治療・自助・生活支援を組み合わせる」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 家族や社会資源が有用な場合がある。
- イ. 道徳的問題だけとして扱わない。
- ウ. 再使用は治療計画を見直す機会であり、支援終了の理由とは限らない。
- エ. 依存症は慢性的経過を取り得る疾患で、再発予防には多面的支援が重要である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「家族・地域支援を一切使わない」に対応する説明で、判断対象「再発リスクや引き金を把握し、治療・自助・生活支援を組み合わせる」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「本人の意思が弱いだけと非難する」に対応する説明で、判断対象「再発リスクや引き金を把握し、治療・自助・生活支援を組み合わせる」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「一度再使用したら治療を終了する」に対応する説明で、判断対象「再発リスクや引き金を把握し、治療・自助・生活支援を組み合わせる」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「再発リスクや引き金を把握し、治療・自助・生活支援を組み合わせる」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。依存症は慢性的経過を取り得る疾患で、再発予防には多面的支援が重要である。判断対象は「再発リスクや引き金を把握し、治療・自助・生活支援を組み合わせる」。作業療法では生活リズム、役割、余暇、対人関係など再発と関連する生活構造にも働きかける。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q087

精神医学・臨床心理 > ストレス関連・不安・摂食・依存 | 応用

不安症に対する段階的曝露の基本的な考え方として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「不安を感じる活動を生涯すべて避ける」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 身体症状や医学的危険は評価する必要がある。
- イ. 段階的曝露では不安階層などを用い、安全と合意を確保しながら回避行動を減らす。
- ウ. 本人の同意と段階づけが重要である。
- エ. 恒常的回避は不安を維持することがある。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「身体症状を必ず無視する」に対応する説明で、判断対象「不安を感じる活動を生涯すべて避ける」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「本人と合意した範囲で不安を生じる状況へ段階的に接近し、回避を減らしていく」に対応する説明で、判断対象「不安を感じる活動を生涯すべて避ける」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「最も恐怖の強い状況へ説明なく突然連れていく」に対応する説明で、判断対象「不安を感じる活動を生涯すべて避ける」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「不安を感じる活動を生涯すべて避ける」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。恒常的回避は不安を維持することがある。判断対象は「不安を感じる活動を生涯すべて避ける」。心理的介入は作業課題へ応用できるが、訓練の目的と本人の理解・同意を重視する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q088

精神医学・臨床心理 > 認知症 | 基礎

認知症の中核症状に含まれるのはどれか。この論点で、選択肢「記憶障害や見当識障害」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 発熱は認知症の中核症状ではない。
- イ. 末梢神経損傷ではない。
- ウ. 記憶、見当識、理解・判断などの認知機能低下は中核症状に含まれる。
- エ. 関節疾患ではない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「発熱だけ」に対応する説明で、判断対象「記憶障害や見当識障害」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「末梢神経断裂だけ」に対応する説明で、判断対象「記憶障害や見当識障害」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「記憶障害や見当識障害」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「関節変形だけ」に対応する説明で、判断対象「記憶障害や見当識障害」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。記憶、見当識、理解・判断などの認知機能低下は中核症状に含まれる。判断対象は「記憶障害や見当識障害」。認知症では認知機能低下に加え、行動・心理症状が生活場面で問題となることがある。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q089

精神医学・臨床心理 > 認知症 | 標準

せん妄を認知症と区別する手掛かりとして最も重要なのはどれか。この論点で、選択肢「感染や薬剤の影響を受けない」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

ア. 感染、薬剤、脱水、手術などが誘因となる。

イ. せん妄は急性に発症し、注意・意識の障害と変動性を示すことが多い。

ウ. せん妄では注意・意識水準が変動する。

エ. 数年単位の徐々な進行は認知症でより典型的である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「感染や薬剤の影響を受けない」が誤答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「急性発症と注意障害、症状の日内変動」に対応する説明で、判断対象「感染や薬剤の影響を受けない」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「意識・注意は常に清明である」に対応する説明で、判断対象「感染や薬剤の影響を受けない」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「必ず数年かけて進行する」に対応する説明で、判断対象「感染や薬剤の影響を受けない」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。感染、薬剤、脱水、手術などが誘因となる。判断対象は「感染や薬剤の影響を受けない」。高齢者の急な認知・行動変化は『認知症が進んだ』と決めつけず、せん妄や身体疾患を評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q090

精神医学・臨床心理 > 認知症 | 標準

認知症患者が夕方になると落ち着かず、病棟内を何度も歩き回る。対応として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「疼痛・排泄・疲労・環境刺激など背景要因を確認し、安心できる環境と日課を整える」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

ア. 拘束は最小限とし代替手段を検討する。

イ. 適切な日中活動や生活リズム調整が有用な場合がある。

ウ. BPSDは本人のニーズ、身体状態、環境との相互作用を評価して対応する。

エ. 叱責は不安や混乱を悪化させ得る。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「理由を確認せず直ちに身体拘束する」に対応する説明で、判断対象「疼痛・排泄・疲労・環境刺激など背景要因を確認し、安心できる環境と日課を整える」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「昼夜逆転を悪化させるため日中活動をなくす」に対応する説明で、判断対象「疼痛・排泄・疲労・環境刺激など背景要因を確認し、安心できる環境と日課を整える」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「疼痛・排泄・疲労・環境刺激など背景要因を確認し、安心できる環境と日課を整える」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「叱責して歩行を禁止する」に対応する説明で、判断対象「疼痛・排泄・疲労・環境刺激など背景要因を確認し、安心できる環境と日課を整える」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。BPSDは本人のニーズ、身体状態、環境との相互作用を評価して対応する。判断対象は「疼痛・排泄・疲労・環境刺激など背景要因を確認し、安心できる環境と日課を整える」。認知症支援では行動だけを止めるのではなく、その行動が生じる背景を理解する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q091

精神医学・臨床心理 > 認知症 | 応用

現在の日本の認知症施策で重視される『共生』の考え方として最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「認知症の人を社会参加から一律に除外する」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 地域生活を支える仕組みづくりが重要である。
- イ. 社会参加の機会確保が重視される。
- ウ. 本人の意思と権利を尊重する。
- エ. 認知症の人本人の尊厳、希望、社会参加を重視する共生社会が施策の基本である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「認知症になったら在宅生活は不可能とみなす」に対応する説明で、判断対象「認知症の人を社会参加から一律に除外する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「認知症の人を社会参加から一律に除外する」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「本人の意向より支援者の都合を優先する」に対応する説明で、判断対象「認知症の人を社会参加から一律に除外する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「認知症があっても尊厳と希望を持ち、地域で共に暮らせる社会を目指す」に対応する説明で、判断対象「認知症の人を社会参加から一律に除外する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。社会参加の機会確保が重視される。判断対象は「認知症の人を社会参加から一律に除外する」。2024年に策定された認知症施策推進基本計画は、認知症の人と家族等と共に施策を進めることを重視している。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q092

精神医学・臨床心理 > ASD・ADHD・知的障害等 | 基礎

自閉スペクトラム症 ASD の特徴として適切なものはどれか。この論点で、選択肢「社会的コミュニケーションの困難と限定的・反復的な行動や興味」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. ASDでは社会的コミュニケーション・相互作用の困難と、限定・反復的行動などが中核となる。
- イ. 幻覚はASDの中核特徴ではない。
- ウ. 関節疾患ではない。
- エ. 神経筋疾患の説明である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「社会的コミュニケーションの困難と限定的・反復的な行動や興味」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「幻覚だけ」に対応する説明で、判断対象「社会的コミュニケーションの困難と限定的・反復的な行動や興味」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「関節炎だけ」に対応する説明で、判断対象「社会的コミュニケーションの困難と限定的・反復的な行動や興味」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「進行性筋萎縮だけ」に対応する説明で、判断対象「社会的コミュニケーションの困難と限定的・反復的な行動や興味」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。ASDでは社会的コミュニケーション・相互作用の困難と、限定・反復的行動などが中核となる。判断対象は「社会的コミュニケーションの困難と限定的・反復的な行動や興味」。ASDの支援では感覚特性、予測可能性、コミュニケーション方法、環境調整を個別に検討する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q093

精神医学・臨床心理 > ASD・ADHD・知的障害等 | 基礎

注意欠如・多動症 ADHD で中核となる症状はどれか。この論点で、選択肢「筋強剛、振戦」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. Parkinson病の症状である。
- イ. 運動器障害である。
- ウ. 高次脳機能障害の組合せである。
- エ. ADHDでは不注意、多動性、衝動性が発達段階に不相応な程度で持続する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「筋強剛、振戦」が誤答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「関節拘縮、疼痛」に対応する説明で、判断対象「筋強剛、振戦」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「失語、失行、失認」に対応する説明で、判断対象「筋強剛、振戦」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「不注意、多動性、衝動性」に対応する説明で、判断対象「筋強剛、振戦」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。Parkinson病の症状である。判断対象は「筋強剛、振戦」。ADHDの支援では課題を短く区切る、視覚の手掛かりを使う、環境刺激を調整するなどが有効なことがある。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q094

精神医学・臨床心理 > ASD・ADHD・知的障害等 | 標準

知的障害の評価で重要なものはどれか。この論点で、選択肢「知的機能と適応機能の両面を評価する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 概念的・社会的・実用的な適応機能と知的機能を総合して考える。
- イ. 成人期にも学習や適応は可能である。
- ウ. 生活機能や環境によって必要な支援は異なる。
- エ. 認知・社会・生活面を含めた評価が必要である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「知的機能と適応機能の両面を評価する」が正答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「成人後の学習可能性を否定する」に対応する説明で、判断対象「知的機能と適応機能の両面を評価する」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「IQだけで生活上の支援必要度を完全に決める」に対応する説明で、判断対象「知的機能と適応機能の両面を評価する」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「運動機能だけを評価する」に対応する説明で、判断対象「知的機能と適応機能の両面を評価する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。概念的・社会的・実用的な適応機能と知的機能を総合して考える。判断対象は「知的機能と適応機能の両面を評価する」。作業療法では診断名だけでなく、実際の生活課題と必要な支援量を具体的に把握する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q095

精神医学・臨床心理 > ASD・ADHD・知的障害等 | 応用

ASDのある児が騒音の多い教室で集中できず混乱しやすい。最も適切な支援はどれか。この論点で、選択肢「感覚過敏は存在しないと決めつける」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 個々の感覚処理特性と課題要求を評価し、環境を適合させる。
- イ. ASDでは感覚刺激への反応性の違いがみられることがある。
- ウ. 参加機会を保ちながら合理的な調整を検討する。
- エ. 刺激過多を悪化させる可能性がある。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「本人の感覚特性を評価し、座席や騒音、視覚の手掛かりなど環境を調整する」に対応する説明で、判断対象「感覚過敏は存在しないと決めつける」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「感覚過敏は存在しないと決めつける」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「全ての集団活動から恒久的に排除する」に対応する説明で、判断対象「感覚過敏は存在しないと決めつける」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「混乱しても刺激をさらに増やす」に対応する説明で、判断対象「感覚過敏は存在しないと決めつける」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。ASDでは感覚刺激への反応性の違いがみられることがある。判断対象は「感覚過敏は存在しないと決めつける」。発達支援では『本人を環境へ合わせる』だけでなく、環境・課題側の調整も重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q096

精神医学・臨床心理 > 心理検査・臨床心理 | 標準

心理検査の信頼性 reliability の説明として正しいのはどれか。この論点で、選択肢「測定結果の一貫性や再現性に関する性質」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 検査時間とは別の概念である。
- イ. 信頼性は測定の安定性・一貫性を表す。
- ウ. 主観的好みではない。
- エ. これは妥当性の説明に近い。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「検査時間の長さだけを示す」に対応する説明で、判断対象「測定結果の一貫性や再現性に関する性質」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「測定結果の一貫性や再現性に関する性質」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「検査者の好みを示す」に対応する説明で、判断対象「測定結果の一貫性や再現性に関する性質」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「測りたい概念を正しく測っているかだけを示す」に対応する説明で、判断対象「測定結果の一貫性や再現性に関する性質」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。信頼性は測定の安定性・一貫性を表す。判断対象は「測定結果の一貫性や再現性に関する性質」。心理検査の解釈では信頼性、妥当性、標準化、対象集団などを確認する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q097

精神医学・臨床心理 > 心理検査・臨床心理 | 標準

質問紙法の特徴として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「筋力を直接測定する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 生理検査ではない。
- イ. 質問紙法は標準化された項目への回答を得て尺度得点などを算出する。
- ウ. 筋力測定ではない。
- エ. 曖昧刺激への自由反応は投影法の特徴である。

答え・4肢解説

正答：ウ

- ア：誤り。これは別の選択肢「脳波のみを記録する」に対応する説明で、判断対象「筋力を直接測定する」の直接の根拠ではない。
- イ：誤り。これは別の選択肢「決められた質問項目への回答を一定の方法で得点化する」に対応する説明で、判断対象「筋力を直接測定する」の直接の根拠ではない。
- ウ：正しい。これは判断対象「筋力を直接測定する」が誤答となる理由を直接説明している。
- エ：誤り。これは別の選択肢「曖昧な刺激への自由反応だけを扱う」に対応する説明で、判断対象「筋力を直接測定する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。筋力測定ではない。判断対象は「筋力を直接測定する」。検査法ごとに長所・限界があり、結果は面接や行動観察と合わせて解釈する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q098

精神医学・臨床心理 > 心理検査・臨床心理 | 応用

治療的面接で最も適切な姿勢はどれか。この論点で、選択肢「相手の体験を尊重し、評価・批判を急がずに理解を深める」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 本人の価値観と選択を尊重する。
- イ. 共感的理解、受容的態度、適切な質問と要約が治療関係形成に重要である。
- ウ. 話を遮ると重要情報や信頼関係を損なう。
- エ. 守秘の範囲と安全確保に関わる例外を適切に扱う必要がある。

答え・4肢解説

正答：イ

- ア：誤り。これは別の選択肢「支援者の価値観を押し付ける」に対応する説明で、判断対象「相手の体験を尊重し、評価・批判を急がずに理解を深める」の直接の根拠ではない。
- イ：正しい。これは判断対象「相手の体験を尊重し、評価・批判を急がずに理解を深める」が正答となる理由を直接説明している。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「結論を急いで話を遮る」に対応する説明で、判断対象「相手の体験を尊重し、評価・批判を急がずに理解を深める」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「守秘義務や安全上の例外を説明しない」に対応する説明で、判断対象「相手の体験を尊重し、評価・批判を急がずに理解を深める」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。共感的理解、受容的態度、適切な質問と要約が治療関係形成に重要である。判断対象は「相手の体験を尊重し、評価・批判を急がずに理解を深める」。臨床心理的関わりでは技法だけでなく、治療同盟と本人の安全・尊厳を重視する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q099

小児・老年医学 > 脳性麻痺・二分脊椎・Down症候群等 | 基礎

脳性麻痺について正しいのはどれか。この論点で、選択肢「末梢神経障害だけを指す」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 中枢神経系の障害である。
- イ. 運動・姿勢障害を中心に多様な随伴障害を伴い得る。
- ウ. 脳性麻痺は発達中の胎児・乳児脳の非進行性障害に由来する。
- エ. 脳病変自体は非進行性である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「末梢神経障害だけを指す」が誤答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「関節炎だけで診断される」に対応する説明で、判断対象「末梢神経障害だけを指す」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「発達中の脳の非進行性病変に由来する運動・姿勢障害を中心とする」に対応する説明で、判断対象「末梢神経障害だけを指す」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「成人後に必ず進行性に脳が変性する疾患だけを指す」に対応する説明で、判断対象「末梢神経障害だけを指す」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。中枢神経系の障害である。判断対象は「末梢神経障害だけを指す」。成長に伴って筋骨格系の二次障害が変化するため、長期的な機能管理が重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q100

小児・老年医学 > 脳性麻痺・二分脊椎・Down症候群等 | 標準

痙直型脳性麻痺でみられやすいのはどれか。この論点で、選択肢「筋緊張亢進と腱反射亢進」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 弛緩のみではない。
- イ. 運動障害が中心となる。
- ウ. 上位運動ニューロン障害に伴う痙縮や反射亢進がみられる。
- エ. Parkinson病の典型ではない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「完全な筋緊張消失のみ」に対応する説明で、判断対象「筋緊張亢進と腱反射亢進」の直接の根拠ではない。
イ：誤り。これは別の選択肢「感覚障害だけ」に対応する説明で、判断対象「筋緊張亢進と腱反射亢進」の直接の根拠ではない。
ウ：正しい。これは判断対象「筋緊張亢進と腱反射亢進」が正答となる理由を直接説明している。
エ：誤り。これは別の選択肢「安静時振戦だけ」に対応する説明で、判断対象「筋緊張亢進と腱反射亢進」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。上位運動ニューロン障害に伴う痙縮や反射亢進がみられる。判断対象は「筋緊張亢進と腱反射亢進」。脳性麻痺では運動型だけでなく、GMFCSなどで粗大運動機能レベルを把握することがある。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q101

小児・老年医学 > 脳性麻痺・二分脊椎・Down症候群等 | 標準

二分脊椎で問題となりやすいのはどれか。この論点で、選択肢「関節軟骨変性だけ」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 病変高位に応じた下肢機能障害や神経因性膀胱・腸が問題となり得る。
- イ. 大脳言語野の障害ではない。
- ウ. Parkinson病の特徴ではない。
- エ. 先天性神経管閉鎖障害である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「脊髄・神経根障害に伴う下肢運動感覚障害や膀胱直腸機能障害」に対応する説明で、判断対象「関節軟骨変性だけ」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「失語だけ」に対応する説明で、判断対象「関節軟骨変性だけ」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「上肢の安静時振戦だけ」に対応する説明で、判断対象「関節軟骨変性だけ」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「関節軟骨変性だけ」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。先天性神経管閉鎖障害である。判断対象は「関節軟骨変性だけ」。二分脊椎では移動、排泄、皮膚管理、整形外科的変形、学習・社会参加を包括的に支援する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q102

小児・老年医学 > 脳性麻痺・二分脊椎・Down症候群等 | 標準

二分脊椎で下肢感覚低下がある児への生活指導として重要なものはどれか。この論点で、選択肢「毎日皮膚を観察し、圧迫や熱傷を予防する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 熱傷リスクがある。
- イ. 感覚低下があると傷・圧迫・熱傷に気づきにくく、皮膚確認が重要である。
- ウ. 感覚低下はむしろ損傷リスクを高める。
- エ. 持続圧迫を避ける必要がある。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「熱い湯たんぽを直接当てる」に対応する説明で、判断対象「毎日皮膚を観察し、圧迫や熱傷を予防する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「毎日皮膚を観察し、圧迫や熱傷を予防する」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「感覚がないので皮膚損傷は起こらないと説明する」に対応する説明で、判断対象「毎日皮膚を観察し、圧迫や熱傷を予防する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「長時間同じ姿勢を保つ」に対応する説明で、判断対象「毎日皮膚を観察し、圧迫や熱傷を予防する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。感覚低下があると傷・圧迫・熱傷に気づきにくく、皮膚確認が重要である。判断対象は「毎日皮膚を観察し、圧迫や熱傷を予防する」。感覚障害がある場合、本人・家族が皮膚状態をセルフチェックできるよう支援する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q103

小児・老年医学 > 脳性麻痺・二分脊椎・Down症候群等 | 基礎

Down症候群の乳幼児でみられやすい身体的特徴はどれか。この論点で、選択肢「片麻痺のみ」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

ア. 筋緊張低下や関節弛緩性が運動発達へ影響することがある。

イ. 片麻痺を特徴としない。

ウ. 高度痙縮が典型ではない。

エ. Parkinson病の症状ではない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「筋緊張低下」に対応する説明で、判断対象「片麻痺のみ」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「片麻痺のみ」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「常に高度な痙縮」に対応する説明で、判断対象「片麻痺のみ」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「安静時振戦のみ」に対応する説明で、判断対象「片麻痺のみ」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。片麻痺を特徴としない。判断対象は「片麻痺のみ」。Down症候群では運動発達、心疾患、聴覚・視覚、甲状腺など多面的な健康管理が必要となる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q104

小児・老年医学 > 脳性麻痺・二分脊椎・Down症候群等 | 応用

Down症候群のある児で、頸部痛や歩行変化、上肢巧緻性低下が新たに出現した。最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「頸髄圧迫を伴う環軸椎不安定性などを考え、医療評価につなげる」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

ア. 神経症状が疑われる状態で強い頸部操作は危険である。

イ. 新規症状を行動の問題だけで説明しない。

ウ. 頸髄障害の可能性を除外せず負荷をかけない。

エ. Down症候群では環軸椎不安定性が問題となることがあり、新規神経症状は評価が必要である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「症状を無視して頸部へ強い矯正を行う」に対応する説明で、判断対象「頸髄圧迫を伴う環軸椎不安定性などを考え、医療評価につなげる」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「筋力低下は必ず怠慢と判断する」に対応する説明で、判断対象「頸髄圧迫を伴う環軸椎不安定性などを考え、医療評価につなげる」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「首を最大屈曲させる運動を反復する」に対応する説明で、判断対象「頸髄圧迫を伴う環軸椎不安定性などを考え、医療評価につなげる」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「頸髄圧迫を伴う環軸椎不安定性などを考え、医療評価につなげる」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。Down症候群では環軸椎不安定性が問題となることがあり、新規神経症状は評価が必要である。判断対象は「頸髄圧迫を伴う環軸椎不安定性などを考え、医療評価につなげる」。小児作業療法では診断特有の医学的リスクを理解し、安全な活動設定を行う。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q105

小児・老年医学 > 脳性麻痺・二分脊椎・Down症候群等 | 標準

発達障害や先天性疾患のある児への支援として適切なものはどれか。この論点で、選択肢「訓練室内の成績だけを重視する」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 家族の価値観と生活条件は支援計画に重要である。
- イ. 小児リハビリテーションでは家族・教育・地域との協働が重要である。
- ウ. 生活場面への汎化を考える必要がある。
- エ. 多機関連携が必要な場合が多い。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「家族の希望を聞かない」に対応する説明で、判断対象「訓練室内の成績だけを重視する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「児と家族の生活目標を共有し、家庭・学校・地域で実行可能な支援を考える」に対応する説明で、判断対象「訓練室内の成績だけを重視する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「訓練室内の成績だけを重視する」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「学校や地域との連携を避ける」に対応する説明で、判断対象「訓練室内の成績だけを重視する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。生活場面への汎化を考える必要がある。判断対象は「訓練室内の成績だけを重視する」。子どもの発達と参加を支えるには、本人の能力だけでなく環境や養育者支援も含める。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q106

小児・老年医学 > 老年期障害・サルコペニア・フレイル | 基礎

フレイルについて最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「健康な状態と要介護状態の中間に位置し、適切な介入で改善可能性がある状態」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 身体だけでなく心理・社会面も含む。
- イ. フレイルは多面的な脆弱性が増した状態で、早期介入により改善可能性がある。
- ウ. 認知・心理面も関連し得る。
- エ. 要介護状態に至る前段階を含む。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「筋量だけで定義される」に対応する説明で、判断対象「健康な状態と要介護状態の中間に位置し、適切な介入で改善可能性がある状態」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「健康な状態と要介護状態の中間に位置し、適切な介入で改善可能性がある状態」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「認知機能とは無関係である」に対応する説明で、判断対象「健康な状態と要介護状態の中間に位置し、適切な介入で改善可能性がある状態」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「不可逆的な寝たきりだけを指す」に対応する説明で、判断対象「健康な状態と要介護状態の中間に位置し、適切な介入で改善可能性がある状態」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。フレイルは多面的な脆弱性が増した状態で、早期介入により改善可能性がある。判断対象は「健康な状態と要介護状態の中間に位置し、適切な介入で改善可能性がある状態」。フレイル予防では運動、栄養、社会参加など複数領域への働きかけが重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q107

小児・老年医学 > 老年期障害・サルコペニア・フレイル | 標準

サルコペニアの評価で重要なのはどれか。この論点で、選択肢「関節可動域だけで診断する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 視覚だけでは評価できない。
- イ. 認知機能だけの概念ではない。
- ウ. サルコペニアは筋量低下に加え、筋力や身体機能の低下を組み合わせで評価する。
- エ. 関節可動域だけでは診断しない。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「視力だけを測る」に対応する説明で、判断対象「関節可動域だけで診断する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「認知機能だけを測る」に対応する説明で、判断対象「関節可動域だけで診断する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「筋量だけでなく筋力や身体機能もみる」に対応する説明で、判断対象「関節可動域だけで診断する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「関節可動域だけで診断する」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。関節可動域だけでは診断しない。判断対象は「関節可動域だけで診断する」。臨床では握力、歩行速度、立ち上がりなどが身体機能評価として用いられる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q108

小児・老年医学 > 老年期障害・サルコペニア・フレイル | 標準

高齢者の転倒リスク評価として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「筋力、平衡、薬剤、視覚、認知、環境などを総合する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 転倒は内的・外的要因が複合して生じる。
- イ. 段差、照明、履物など環境も重要である。
- ウ. 単一因子だけでは不十分である。
- エ. 既往転倒は重要なリスク情報である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「筋力、平衡、薬剤、視覚、認知、環境などを総合する」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「住環境は関係しない」に対応する説明で、判断対象「筋力、平衡、薬剤、視覚、認知、環境などを総合する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「筋力だけ見れば十分である」に対応する説明で、判断対象「筋力、平衡、薬剤、視覚、認知、環境などを総合する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「転倒歴は確認しない」に対応する説明で、判断対象「筋力、平衡、薬剤、視覚、認知、環境などを総合する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。転倒は内的・外的要因が複合して生じる。判断対象は「筋力、平衡、薬剤、視覚、認知、環境などを総合する」。転倒予防では身体機能訓練だけでなく薬剤・視覚・環境・行動の調整を組み合わせる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q109

小児・老年医学 > 老年期障害・サルコペニア・フレイル | 標準

高齢者が急性疾患後に長期間ベッド上安静となった場合に起こりやすいのはどれか。この論点で、選択肢「筋力の急速な増加」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 持久力は低下しやすい。
- イ. 不活動により筋・循環・呼吸・骨など多系統で廃用性変化が起こる。
- ウ. 骨量は低下方向となり得る。
- エ. 筋力は低下しやすい。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「最大酸素摂取量の増加」に対応する説明で、判断対象「筋力の急速な増加」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「筋力低下や起立耐性低下などの廃用」に対応する説明で、判断対象「筋力の急速な増加」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「骨量の増加だけ」に対応する説明で、判断対象「筋力の急速な増加」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「筋力の急速な増加」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。筋力は低下しやすい。判断対象は「筋力の急速な増加」。高齢者は予備力が小さいため、医学的安全を確保しつつ早期離床と活動量確保が重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q110

小児・老年医学 > 老年期障害・サルコペニア・フレイル | 標準

高齢者の身体機能維持に推奨される運動の組合せとして最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「有酸素運動、筋力トレーニング、バランス運動を組み合わせる」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 過度な安静は廃用を促進する。
- イ. 厚労省の運動プログラムでは高齢者に複数要素を組み合わせた運動が推奨されている。
- ウ. 安全に配慮した筋力トレーニングは重要である。
- エ. 柔軟性だけでは身体機能の維持に不十分である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「安静を中心とする」に対応する説明で、判断対象「有酸素運動、筋力トレーニング、バランス運動を組み合わせる」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「有酸素運動、筋力トレーニング、バランス運動を組み合わせる」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「筋力トレーニングを一切行わない」に対応する説明で、判断対象「有酸素運動、筋力トレーニング、バランス運動を組み合わせる」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「ストレッチだけに限定する」に対応する説明で、判断対象「有酸素運動、筋力トレーニング、バランス運動を組み合わせる」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。厚労省の運動プログラムでは高齢者に複数要素を組み合わせた運動が推奨されている。判断対象は「有酸素運動、筋力トレーニング、バランス運動を組み合わせる」。高齢者の運動は疾患・体力・転倒リスクに応じて個別調整する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q111

小児・老年医学 > 老年期障害・サルコペニア・フレイル | 応用

高齢者に体重減少、歩行速度低下、服薬増加、軽度認知低下、独居がある。評価として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「歩行速度だけで全てを説明する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 単一指標だけでは不十分である。
- イ. 高齢者では複数の問題が相互に影響するため包括的評価が重要である。
- ウ. 社会的孤立や支援体制も健康と生活機能へ影響する。
- エ. 暦年齢だけで機能や支援必要度は決まらない。

答え・4肢解説

正答：ア

- ア：正しい。これは判断対象「歩行速度だけで全てを説明する」が誤答となる理由を直接説明している。
- イ：誤り。これは別の選択肢「身体・認知・心理・社会・薬剤・栄養を包括的に評価する」に対応する説明で、判断対象「歩行速度だけで全てを説明する」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「独居は医療と無関係として無視する」に対応する説明で、判断対象「歩行速度だけで全てを説明する」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「年齢だけで介入を決める」に対応する説明で、判断対象「歩行速度だけで全てを説明する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。単一指標だけでは不十分である。判断対象は「歩行速度だけで全てを説明する」。老年期リハビリテーションでは疾患別評価に加えて、生活全体を統合して考える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q112

小児・老年医学 > 老年期障害・サルコペニア・フレイル | 応用

フレイル予防として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「運動・栄養に加えて、人との交流や社会参加の維持も考える」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. フレイルは身体・心理・社会的側面を含むため、社会参加も重要な要素である。
- イ. 単一領域だけでは不十分である。
- ウ. 栄養改善は重要である。
- エ. 安全を確保しつつ活動と参加を支える。

答え・4肢解説

正答：ア

- ア：正しい。これは判断対象「運動・栄養に加えて、人との交流や社会参加の維持も考える」が正答となる理由を直接説明している。
- イ：誤り。これは別の選択肢「筋力だけを増やせば他の要因は不要である」に対応する説明で、判断対象「運動・栄養に加えて、人との交流や社会参加の維持も考える」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「低栄養を放置する」に対応する説明で、判断対象「運動・栄養に加えて、人との交流や社会参加の維持も考える」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「外出を一律に制限する」に対応する説明で、判断対象「運動・栄養に加えて、人との交流や社会参加の維持も考える」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。フレイルは身体・心理・社会的側面を含むため、社会参加も重要な要素である。判断対象は「運動・栄養に加えて、人との交流や社会参加の維持も考える」。高齢者の健康維持では『動く・食べる・つながる』を生活の中で実現する視点が重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q113

内部障害・がん > 呼吸器 | 基礎

COPD 慢性閉塞性肺疾患 でみられやすい症状はどれか。この論点で、選択肢「安静時振戦のみ」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. Parkinson病の症状である。
- イ. 中枢神経の言語障害ではない。
- ウ. 関節疾患ではない。
- エ. COPDでは労作時呼吸困難、咳、喀痰、喘鳴などがみられ得る。

答え・4肢解説

正答：ア

- ア：正しい。これは判断対象「安静時振戦のみ」が誤答となる理由を直接説明している。
- イ：誤り。これは別の選択肢「失語のみ」に対応する説明で、判断対象「安静時振戦のみ」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「関節変形のみ」に対応する説明で、判断対象「安静時振戦のみ」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「労作時息切れや慢性咳嗽」に対応する説明で、判断対象「安静時振戦のみ」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。Parkinson病の症状である。判断対象は「安静時振戦のみ」。COPDでは呼吸症状だけでなく、活動性低下や筋力低下がADLへ影響する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q114

内部障害・がん > 呼吸器 | 標準

COPD患者に用いられる口すばめ呼吸の目的として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「呼吸をゆっくり行い気道虚脱を抑えて呼吸を整える」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 酸素消費を0にすることはできない。
- イ. 肺泡を永久に拡張させる方法ではない。
- ウ. 吸気を止める呼吸法ではない。
- エ. 口すばめ呼吸は呼気時の気道内圧を保ち、呼吸をゆっくり行うのに役立つ。

答え・4肢解説

正答：エ

- ア：誤り。これは別の選択肢「酸素消費を必ず0にする」に対応する説明で、判断対象「呼吸をゆっくり行い気道虚脱を抑えて呼吸を整える」の直接の根拠ではない。
- イ：誤り。これは別の選択肢「肺泡を永久に拡張させる」に対応する説明で、判断対象「呼吸をゆっくり行い気道虚脱を抑えて呼吸を整える」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「吸気を完全に止める」に対応する説明で、判断対象「呼吸をゆっくり行い気道虚脱を抑えて呼吸を整える」の直接の根拠ではない。
- エ：正しい。これは判断対象「呼吸をゆっくり行い気道虚脱を抑えて呼吸を整える」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。口すばめ呼吸は呼気時の気道内圧を保ち、呼吸をゆっくり行うのに役立つ。判断対象は「呼吸をゆっくり行い気道虚脱を抑えて呼吸を整える」。呼吸法は症状緩和の手段であり、運動・教育・自己管理などと組み合わせる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q115

内部障害・がん > 呼吸器 | 標準

呼吸リハビリテーションに含まれる内容として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「食事制限だけ」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 呼吸リハビリテーションは運動訓練、教育、呼吸法、自己管理などを含む包括的介入である。
- イ. 薬物療法だけではない。
- ウ. 栄養も重要だが単独では呼吸リハビリテーションを構成しない。
- エ. 過度な安静は廃用を招く。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「運動療法、教育、呼吸法、自己管理支援など」に対応する説明で、判断対象「食事制限だけ」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「薬物治療だけ」に対応する説明で、判断対象「食事制限だけ」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「食事制限だけ」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「完全安静だけ」に対応する説明で、判断対象「食事制限だけ」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。栄養も重要だが単独では呼吸リハビリテーションを構成しない。判断対象は「食事制限だけ」。呼吸リハビリテーションは息切れを減らし、身体活動やQOLの改善を目指す。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q116

内部障害・がん > 呼吸器 | 標準

運動中にSpO2低下、強い呼吸困難、チアノーゼが出現した。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「運動を中止または負荷を下げ、全身状態を確認して必要時に医療評価へつなげる」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 呼吸・循環症状を無視しない。
- イ. 低酸素血症や呼吸状態悪化が疑われるため、安全確保と評価を優先する。
- ウ. 症状悪化時の負荷増加は危険である。
- エ. 身体疾患の悪化を除外せず心理要因だけと決めつけない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「症状を無視する」に対応する説明で、判断対象「運動を中止または負荷を下げ、全身状態を確認して必要時に医療評価へつなげる」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「運動を中止または負荷を下げ、全身状態を確認して必要時に医療評価へつなげる」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「負荷を上げて慣らす」に対応する説明で、判断対象「運動を中止または負荷を下げ、全身状態を確認して必要時に医療評価へつなげる」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「必ず心理的要因だけと判断する」に対応する説明で、判断対象「運動を中止または負荷を下げ、全身状態を確認して必要時に医療評価へつなげる」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。低酸素血症や呼吸状態悪化が疑われるため、安全確保と評価を優先する。判断対象は「運動を中止または負荷を下げ、全身状態を確認して必要時に医療評価へつなげる」。呼吸器疾患の運動ではSpO2、呼吸数、脈拍、自覚症状を総合して安全管理する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q117

内部障害・がん > 呼吸器 | 応用

COPD患者が入浴や更衣で息切れしやすい。作業療法として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「全ADLを家族が永続的に代行する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 可能な活動能力を維持する視点が必要である。
- イ. 安全な負荷設定が必要である。
- ウ. 急ぎ動作は換気需要を増やしやすい。
- エ. 省エネルギー、ペーシング、座位化、作業手順調整は息切れ軽減に役立つ。

OT03 Q118

内部障害・がん > 循環器 | 基礎

心不全でみられやすい症状はどれか。この論点で、選択肢「労作時呼吸困難や浮腫」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 言語障害ではない。
- イ. 尺骨神経障害の所見に近い。
- ウ. 心不全では心拍出低下やうっ血により呼吸困難、易疲労、浮腫などがみられる。
- エ. Parkinson病の症状である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「全ADLを家族が永続的に代行する」が誤答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「呼吸状態を確認せず高負荷課題を行う」に対応する説明で、判断対象「全ADLを家族が永続的に代行する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「息切れしても急いで連続動作する」に対応する説明で、判断対象「全ADLを家族が永続的に代行する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「動作を分割し、座位活用や休息、呼気に合わせた動作を取り入れる」に対応する説明で、判断対象「全ADLを家族が永続的に代行する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。可能な活動能力を維持する視点が必要である。判断対象は「全ADLを家族が永続的に代行する」。内部障害の作業療法では症状を我慢させるのではなく、生活動作を効率化して参加を維持する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「失語のみ」に対応する説明で、判断対象「労作時呼吸困難や浮腫」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「指の外転障害のみ」に対応する説明で、判断対象「労作時呼吸困難や浮腫」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「労作時呼吸困難や浮腫」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「安静時振戦のみ」に対応する説明で、判断対象「労作時呼吸困難や浮腫」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。心不全では心拍出低下やうっ血により呼吸困難、易疲労、浮腫などがみられる。判断対象は「労作時呼吸困難や浮腫」。心不全のリハビリテーションでは症状、体重、血圧、脈拍などを確認し、過負荷を避ける。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q119

内部障害・がん > 循環器 | 標準

左心不全で生じやすいのはどれか。この論点で、選択肢「関節軟骨変性」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 末梢神経障害ではない。
- イ. 神経局在症状ではない。
- ウ. 左心機能低下では肺静脈圧が上昇し、肺うっ血・呼吸困難を生じ得る。
- エ. 関節疾患ではない。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「末梢神経断裂」に対応する説明で、判断対象「関節軟骨変性」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「片側手指麻痺のみ」に対応する説明で、判断対象「関節軟骨変性」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「肺うっ血による呼吸困難」に対応する説明で、判断対象「関節軟骨変性」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「関節軟骨変性」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。関節疾患ではない。判断対象は「関節軟骨変性」。心不全症状は左心系・右心系のうっ血と心拍動低下を関連付けて理解する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q120

内部障害・がん > 循環器 | 標準

運動中に締め付けるような胸痛が出現し、休んでも改善せず冷汗を伴っている。最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「急性冠症候群を疑い運動を中止して緊急評価へつなげる」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 持続する胸痛と冷汗は心筋虚血を含む緊急病態を疑う。
- イ. 重篤な心疾患の可能性がある。
- ウ. 食事だけで対処しない。
- エ. 心筋梗塞などを除外する必要がある。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「急性冠症候群を疑い運動を中止して緊急評価へつなげる」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「運動を続けて様子を見る」に対応する説明で、判断対象「急性冠症候群を疑い運動を中止して緊急評価へつなげる」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「食事だけで改善すると考える」に対応する説明で、判断対象「急性冠症候群を疑い運動を中止して緊急評価へつなげる」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「筋肉痛と決めつける」に対応する説明で、判断対象「急性冠症候群を疑い運動を中止して緊急評価へつなげる」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。持続する胸痛と冷汗は心筋虚血を含む緊急病態を疑う。判断対象は「急性冠症候群を疑い運動を中止して緊急評価へつなげる」。心血管疾患のリハビリ中は胸痛、呼吸困難、失神前症状などを中止基準として扱う。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q121

内部障害・がん > 循環器 | 応用

β遮断薬を服用している心疾患患者の運動強度調整で適切なのはどれか。この論点で、選択肢「年齢予測最大心拍数だけで必ず決める」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. β遮断薬では心拍応答が抑制されるため、RPEや症状、血圧などを併用する。
- イ. 循環応答を評価する必要がある。
- ウ. 症状は重要な安全指標である。
- エ. 薬剤の影響を受けるため単純な年齢式だけでは不十分である。

OT03 Q122

内部障害・がん > 循環器 | 標準

慢性心不全患者で数日間に急な体重増加と下腿浮腫、息切れ増悪がみられた。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「うっ血悪化を疑い医療チームへ報告する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 短期間の体重増加と浮腫・呼吸困難は体液貯留による心不全悪化を示唆する。
- イ. 水分管理は病状と医療指示に従う。
- ウ. 数日の急増は筋肥大では説明しにくい。
- エ. 悪化時の過負荷は避ける。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「心拍数だけでなく自覚的運動強度や症状も併用する」に対応する説明で、判断対象「年齢予測最大心拍数だけで必ず決める」の直接の根拠ではない。
イ：誤り。これは別の選択肢「血圧測定は不要である」に対応する説明で、判断対象「年齢予測最大心拍数だけで必ず決める」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「息切れや胸痛を無視する」に対応する説明で、判断対象「年齢予測最大心拍数だけで必ず決める」の直接の根拠ではない。
エ：正しい。これは判断対象「年齢予測最大心拍数だけで必ず決める」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。薬剤の影響を受けるため単純な年齢式だけでは不十分である。判断対象は「年齢予測最大心拍数だけで必ず決める」。内部障害では薬剤が運動反応へ及ぼす影響も考慮する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「うっ血悪化を疑い医療チームへ報告する」が正答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「水分を無制限に摂るよう勧める」に対応する説明で、判断対象「うっ血悪化を疑い医療チームへ報告する」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「必ず筋肥大による体重増加と判断する」に対応する説明で、判断対象「うっ血悪化を疑い医療チームへ報告する」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「運動量を急増させる」に対応する説明で、判断対象「うっ血悪化を疑い医療チームへ報告する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。短期間の体重増加と浮腫・呼吸困難は体液貯留による心不全悪化を示唆する。判断対象は「うっ血悪化を疑い医療チームへ報告する」。自己管理では症状と体重変化のモニタリングが重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q123

内部障害・がん > 糖尿病・腎疾患・代謝 | 標準

糖尿病患者の運動中に冷汗、手指振戦、動悸、強い空腹感が出現した。最も疑うべきなのはどれか。この論点で、選択肢「高カルシウム血症のみ」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 代謝性急変を説明しない。
- イ. 自律神経症状を伴う急な体調変化では低血糖を疑う。
- ウ. 言語中枢障害ではない。
- エ. 典型的ではない。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「関節拘縮」に対応する説明で、判断対象「高カルシウム血症のみ」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「低血糖」に対応する説明で、判断対象「高カルシウム血症のみ」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「失語」に対応する説明で、判断対象「高カルシウム血症のみ」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「高カルシウム血症のみ」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。典型的ではない。判断対象は「高カルシウム血症のみ」。糖尿病患者の運動では食事、薬剤、血糖変動、低血糖時の対応を確認する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q124

内部障害・がん > 糖尿病・腎疾患・代謝 | 標準

2型糖尿病に対する身体活動・運動の効果として適切なものはどれか。この論点で、選択肢「インスリン感受性改善や血糖管理に寄与する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 運動はインスリン作用や血糖管理、心血管健康の改善に寄与する。
- イ. 心血管リスク低減にも関連する。
- ウ. 安全に実施すれば有益である。
- エ. 筋力トレーニングは筋機能維持に役立つ。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「インスリン感受性改善や血糖管理に寄与する」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「心血管リスクと無関係である」に対応する説明で、判断対象「インスリン感受性改善や血糖管理に寄与する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「血糖を必ず悪化させる」に対応する説明で、判断対象「インスリン感受性改善や血糖管理に寄与する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「筋力を必ず低下させる」に対応する説明で、判断対象「インスリン感受性改善や血糖管理に寄与する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。運動はインスリン作用や血糖管理、心血管健康の改善に寄与する。判断対象は「インスリン感受性改善や血糖管理に寄与する」。慢性疾患をもつ人の運動は合併症と治療内容に応じて個別化する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q125

内部障害・がん > 糖尿病・腎疾患・代謝 | 基礎

成人の慢性腎臓病 CKD の主要な原因として重要なのはどれか。この論点で、選択肢「統合失調症とPTSD」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 運動器疾患である。
- イ. 感覚器疾患である。
- ウ. 精神疾患でありCKD主要原因ではない。
- エ. 糖尿病と高血圧は成人CKDの主要原因である。

OT03 Q126

内部障害・がん > 糖尿病・腎疾患・代謝 | 応用

長期の高血糖が腎臓へ及ぼす影響として正しいのはどれか。この論点で、選択肢「腎の血管や糸球体障害を介してCKDへ進行し得る」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. アルブミン尿などが重要な評価所見となる。
- イ. 高血圧も腎障害進行へ影響する。
- ウ. 高血糖は腎血管・糸球体を障害し、糖尿病性腎臓病へ進行し得る。
- エ. 慢性高血糖は腎障害リスクを高める。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「骨折と脱臼」に対応する説明で、判断対象「統合失調症とPTSD」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「白内障と難聴」に対応する説明で、判断対象「統合失調症とPTSD」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「統合失調症とPTSD」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「糖尿病と高血圧」に対応する説明で、判断対象「統合失調症とPTSD」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。精神疾患でありCKD主要原因ではない。判断対象は「統合失調症とPTSD」。腎機能低下では貧血、体液・電解質異常、運動耐容能低下なども問題となり得る。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「尿蛋白とは無関係である」に対応する説明で、判断対象「腎の血管や糸球体障害を介してCKDへ進行し得る」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「高血圧は腎障害へ影響しない」に対応する説明で、判断対象「腎の血管や糸球体障害を介してCKDへ進行し得る」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「腎の血管や糸球体障害を介してCKDへ進行し得る」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「腎機能を必ず改善させる」に対応する説明で、判断対象「腎の血管や糸球体障害を介してCKDへ進行し得る」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。高血糖は腎血管・糸球体を障害し、糖尿病性腎臓病へ進行し得る。判断対象は「腎の血管や糸球体障害を介してCKDへ進行し得る」。糖尿病とCKDでは血糖・血圧管理、薬剤、栄養、身体活動を総合して考える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q127

内部障害・がん > がん・リンパ浮腫・緩和 | 標準

がん治療中の患者が『休んでも取れない強い疲労』を訴え、ADLが低下している。考慮すべき症状はどれか。この論点で、選択肢「失語」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 言語障害ではない。
- イ. 疲労を末梢神経断裂だけで説明しない。
- ウ. がん関連倦怠感を持続的な疲労感として生活機能を大きく低下させることがある。
- エ. Parkinson病症状ではない。

OT03 Q128

内部障害・がん > がん・リンパ浮腫・緩和 | 標準

乳がん治療後の上肢リンパ浮腫のリスクを高める要因はどれか。この論点で、選択肢「腋窩リンパ節郭清やリンパ領域への放射線治療」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 通常の手指運動だけでリンパ系が損傷するわけではない。
- イ. 視力とは無関係である。
- ウ. リンパ節郭清や放射線治療によるリンパ系損傷は二次性リンパ浮腫のリスクとなる。
- エ. 前腕回内だけでは原因にならない。

答え・4肢解説

正答：ア

- ア：正しい。これは判断対象「失語」が誤答となる理由を直接説明している。
- イ：誤り。これは別の選択肢「末梢神経断裂のみ」に対応する説明で、判断対象「失語」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「がん関連倦怠感」に対応する説明で、判断対象「失語」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「安静時振戦」に対応する説明で、判断対象「失語」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。言語障害ではない。判断対象は「失語」。がんリハビリテーションでは倦怠感、貧血、疼痛、栄養、睡眠、活動量などを評価して生活を調整する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ウ

- ア：誤り。これは別の選択肢「手指運動だけ」に対応する説明で、判断対象「腋窩リンパ節郭清やリンパ領域への放射線治療」の直接の根拠ではない。
- イ：誤り。これは別の選択肢「視力低下」に対応する説明で、判断対象「腋窩リンパ節郭清やリンパ領域への放射線治療」の直接の根拠ではない。
- ウ：正しい。これは判断対象「腋窩リンパ節郭清やリンパ領域への放射線治療」が正答となる理由を直接説明している。
- エ：誤り。これは別の選択肢「前腕回内」に対応する説明で、判断対象「腋窩リンパ節郭清やリンパ領域への放射線治療」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。リンパ節郭清や放射線治療によるリンパ系損傷は二次性リンパ浮腫のリスクとなる。判断対象は「腋窩リンパ節郭清やリンパ領域への放射線治療」。リンパ浮腫は治療後長期間たってから生じることもあり、腫脹・皮膚・感染徴候を継続的にみる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q129

内部障害・がん > がん・リンパ浮腫・緩和 | 応用

上肢リンパ浮腫がある患者への支援として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「赤み・熱感があっても放置する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 皮膚損傷は感染リスクを高める。
- イ. 皮膚ケアと感染予防は重要で、急な発赤・熱感・疼痛は評価が必要である。
- ウ. 圧迫療法は適切な評価と方法で行う。
- エ. 蜂窩織炎などの可能性を考える。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「皮膚損傷を気にせず強くこする」に対応する説明で、判断対象「赤み・熱感があっても放置する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「皮膚を清潔に保ち、感染徴候や急な腫脹増悪を観察する」に対応する説明で、判断対象「赤み・熱感があっても放置する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「むくみがあるほど締め付けを自己判断で最大にする」に対応する説明で、判断対象「赤み・熱感があっても放置する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「赤み・熱感があっても放置する」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。蜂窩織炎などの可能性を考える。判断対象は「赤み・熱感があっても放置する」。リンパ浮腫管理は皮膚ケア、運動、圧迫などを患者状態に合わせて行う。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q130

内部障害・がん > がん・リンパ浮腫・緩和 | 標準

緩和ケアについて正しいのはどれか。この論点で、選択肢「病期にかかわらず苦痛やQOLの問題に対応し得る」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. より早期から導入され得る。
- イ. 身体・心理・社会・スピリチュアルな問題を扱う。
- ウ. 疾患治療と並行して提供できる。
- エ. 緩和ケアは疼痛、呼吸困難、心理社会的苦痛などへ対応し、QOLを支える。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「終末期の最後の数日だけに限定される」に対応する説明で、判断対象「病期にかかわらず苦痛やQOLの問題に対応し得る」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「疼痛以外の症状は扱わない」に対応する説明で、判断対象「病期にかかわらず苦痛やQOLの問題に対応し得る」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「がん治療と同時に行えない」に対応する説明で、判断対象「病期にかかわらず苦痛やQOLの問題に対応し得る」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「病期にかかわらず苦痛やQOLの問題に対応し得る」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。緩和ケアは疼痛、呼吸困難、心理社会的苦痛などへ対応し、QOLを支える。判断対象は「病期にかかわらず苦痛やQOLの問題に対応し得る」。作業療法は患者が大切に活動や役割を実現できるよう、症状とエネルギーを調整する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q131

リハビリテーション医学・保健医療福祉 > ICF・QOL・チーム医療 | 基礎

ICF 国際生活機能分類 の生活機能に含まれる主要要素はどれか。この論点で、選択肢「医療費だけ」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 医療費分類ではない。
- イ. ICFでは心身機能・身体構造、活動、参加を生活機能として捉える。
- ウ. 診断名だけでは生活機能を表せない。
- エ. 背景因子の一部だけである。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「医療費だけ」が誤答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「心身機能・身体構造、活動、参加」に対応する説明で、判断対象「医療費だけ」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「診断名だけ」に対応する説明で、判断対象「医療費だけ」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「年齢と性別だけ」に対応する説明で、判断対象「医療費だけ」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。医療費分類ではない。判断対象は「医療費だけ」。ICFは健康状態と生活機能、環境因子、個人因子の相互作用を捉える枠組みである。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q132

リハビリテーション医学・保健医療福祉 > ICF・QOL・チーム医療 | 標準

脳卒中後に『一人で上衣を着ることが難しい』という問題は、ICFで主にどこへ位置づけるか。この論点で、選択肢「活動」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 環境因子は衣服や介助者など外的条件を表す。
- イ. 診断名とは異なる。
- ウ. 更衣という課題の遂行は活動に該当する。
- エ. 上肢麻痺などは心身機能だが、更衣遂行そのものは活動である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「環境因子だけ」に対応する説明で、判断対象「活動」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「健康状態だけ」に対応する説明で、判断対象「活動」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「活動」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「心身機能だけ」に対応する説明で、判断対象「活動」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。更衣という課題の遂行は活動に該当する。判断対象は「活動」。ICFでは同じ患者でも機能障害、活動制限、参加制約を分けて整理し、相互関係を考える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q133

リハビリテーション医学・保健医療福祉 > ICF・QOL・チーム医療 | 標準

車椅子使用者にとって、建物入口の段差を解消するスロープはICF上どのように捉えられるか。この論点で、選択肢「身体機能そのもの」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 疾病・外傷などの健康状態ではない。
- イ. 物理的環境は環境因子であり、スロープは活動・参加を促進する促進因子となり得る。
- ウ. 個人内の特性ではない。
- エ. 身体機能ではない。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「健康状態そのもの」に対応する説明で、判断対象「身体機能そのもの」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「活動・参加を促進する環境因子」に対応する説明で、判断対象「身体機能そのもの」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「個人因子だけ」に対応する説明で、判断対象「身体機能そのもの」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「身体機能そのもの」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。身体機能ではない。判断対象は「身体機能そのもの」。ICFの強みは障害を本人の能力だけでなく、環境との相互作用として捉えられる点にある。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q134

リハビリテーション医学・保健医療福祉 > ICF・QOL・チーム医療 | 標準

QOL quality of life について最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「健康状態だけでなく、本人の価値観や生活満足、役割などを含む多面的概念である」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. QOLは身体・心理・社会面や本人の主観的評価を含む。
- イ. ROMは身体機能の一指標にすぎない。
- ウ. 生存だけでなく生活の質を扱う。
- エ. 本人の価値観を重視する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「健康状態だけでなく、本人の価値観や生活満足、役割などを含む多面的概念である」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「関節可動域と同義である」に対応する説明で、判断対象「健康状態だけでなく、本人の価値観や生活満足、役割などを含む多面的概念である」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「生存期間だけで決まる」に対応する説明で、判断対象「健康状態だけでなく、本人の価値観や生活満足、役割などを含む多面的概念である」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「医療者が本人に代わって一方的に決める」に対応する説明で、判断対象「健康状態だけでなく、本人の価値観や生活満足、役割などを含む多面的概念である」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。QOLは身体・心理・社会面や本人の主観的評価を含む。判断対象は「健康状態だけでなく、本人の価値観や生活満足、役割などを含む多面的概念である」。リハビリテーションでは機能改善だけでなく、本人が重要とする生活の実現を評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q135

リハビリテーション医学・保健医療福祉 > ICF・QOL・チーム医療 | 応用

多職種チームで最も適切な連携はどれか。この論点で、選択肢「各職種が別々の目標を持ち情報交換しない」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

ア. 専門性を尊重して協働する。

イ. 本人・家族を含む共同意思決定が重要である。

ウ. 目標不一致は支援の断片化につながる。

エ. チーム医療では共通目標と相互理解、継続的な情報共有が重要である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「作業療法士が他職種の全業務を代行する」に対応する説明で、判断対象「各職種が別々の目標を持ち情報交換しない」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「患者本人を会議から常に除外する」に対応する説明で、判断対象「各職種が別々の目標を持ち情報交換しない」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「各職種が別々の目標を持ち情報交換しない」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「各職種が専門性を生かしながら共通目標を共有し、必要情報を相互に伝える」に対応する説明で、判断対象「各職種が別々の目標を持ち情報交換しない」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。目標不一致は支援の断片化につながる。判断対象は「各職種が別々の目標を持ち情報交換しない」。チーム連携では役割分担だけでなく、患者の生活目標を軸に専門情報を統合する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q136

リハビリテーション医学・保健医療福祉 > 急性期・回復期・生活期・地域連携 | 基礎

急性期リハビリテーションで特に重要なのはどれか。この論点で、選択肢「全身状態に配慮しながら廃用や合併症を予防し、早期から機能回復を支える」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

ア. 循環・呼吸など全身状態を優先する。

イ. 病状が許せば適切な離床を進める。

ウ. 急性期では安全管理のもと早期離床や合併症予防を進める。

エ. 早期から退院先や生活を見据える。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「医学的安定性を無視して高負荷訓練する」に対応する説明で、判断対象「全身状態に配慮しながら廃用や合併症を予防し、早期から機能回復を支える」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「離床を一律に禁止する」に対応する説明で、判断対象「全身状態に配慮しながら廃用や合併症を予防し、早期から機能回復を支える」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「全身状態に配慮しながら廃用や合併症を予防し、早期から機能回復を支える」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「退院後生活を考えない」に対応する説明で、判断対象「全身状態に配慮しながら廃用や合併症を予防し、早期から機能回復を支える」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。急性期では安全管理のもと早期離床や合併症予防を進める。判断対象は「全身状態に配慮しながら廃用や合併症を予防し、早期から機能回復を支える」。病期ごとに優先課題は変わるが、生活再建という目標は連続している。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q137

リハビリテーション医学・保健医療福祉 > 急性期・回復期・生活期・地域連携 | 標準

回復期リハビリテーションで重視されるのはどれか。この論点で、選択肢「全ての活動を介助者へ代行させる」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 退院後参加を見据える。
- イ. 救命処置は急性期の中心課題である。
- ウ. 回復期では機能回復とADL自立、家屋・家族・地域資源を踏まえた退院支援が重要である。
- エ. 自立支援と適切な介助量調整が必要である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「社会参加を考へない」に対応する説明で、判断対象「全ての活動を介助者へ代行させる」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「救命処置だけ」に対応する説明で、判断対象「全ての活動を介助者へ代行させる」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「集中的な機能・ADL訓練と退院後生活への準備」に対応する説明で、判断対象「全ての活動を介助者へ代行させる」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「全ての活動を介助者へ代行させる」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。自立支援と適切な介助量調整が必要である。判断対象は「全ての活動を介助者へ代行させる」。回復期では病棟生活そのものを訓練場面として活用する視点が重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q138

リハビリテーション医学・保健医療福祉 > 急性期・回復期・生活期・地域連携 | 標準

生活期リハビリテーションで最も重視すべき視点はどれか。この論点で、選択肢「地域生活の継続、役割・参加、二次障害予防を支える」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 生活期では実生活での活動・参加と健康維持が中心となる。
- イ. 住環境や社会資源は重要である。
- ウ. 身体機能だけでは不十分である。
- エ. 本人の価値観・役割を重視する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「地域生活の継続、役割・参加、二次障害予防を支える」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「生活環境を評価しない」に対応する説明で、判断対象「地域生活の継続、役割・参加、二次障害予防を支える」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「訓練室内の筋力だけを改善する」に対応する説明で、判断対象「地域生活の継続、役割・参加、二次障害予防を支える」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「本人の希望を考慮しない」に対応する説明で、判断対象「地域生活の継続、役割・参加、二次障害予防を支える」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。生活期では実生活での活動・参加と健康維持が中心となる。判断対象は「地域生活の継続、役割・参加、二次障害予防を支える」。生活期では地域資源、家族支援、福祉用具、就労・余暇など幅広い視点が必要となる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q139

リハビリテーション医学・保健医療福祉 > 急性期・回復期・生活期・地域連携 | 応用

独居の脳卒中患者が退院予定で、入浴と買い物に不安がある。最も適切な退院支援はどれか。
この論点で、選択肢「病棟内歩行だけであれば支援不要とする」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 早期から準備する必要がある。
- イ. 地域生活には入浴・買い物など多様な課題がある。
- ウ. 退院前から生活環境、ADL/IADL、支援者、社会資源を調整する。
- エ. 本人の意思決定を尊重する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「退院当日に初めて生活課題を確認する」に対応する説明で、判断対象「病棟内歩行だけであれば支援不要とする」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「病棟内歩行だけであれば支援不要とする」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「自宅環境と生活課題を評価し、ケアマネジャー等と必要なサービス・福祉用具・支援方法を調整する」に対応する説明で、判断対象「病棟内歩行だけであれば支援不要とする」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「本人の希望を聞かず施設入所を決める」に対応する説明で、判断対象「病棟内歩行だけであれば支援不要とする」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。地域生活には入浴・買い物など多様な課題がある。判断対象は「病棟内歩行だけであれば支援不要とする」。地域連携は病院から在宅へ情報を渡すだけでなく、生活目標を共有する双方向の協働である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q140

リハビリテーション医学・保健医療福祉 > 急性期・回復期・生活期・地域連携 | 標準

地域包括ケアシステムの構成として厚生労働省が示しているのはどれか。この論点で、選択肢「住まい・医療・介護・予防・生活支援」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 家族だけに負担を集中させる仕組みではない。
- イ. 在宅を含む多様な生活の場を支える。
- ウ. 住まいを基盤に、医療・介護・予防・生活支援を包括的に確保する考え方である。
- エ. 医療だけではない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「家族介護だけ」に対応する説明で、判断対象「住まい・医療・介護・予防・生活支援」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「介護施設だけ」に対応する説明で、判断対象「住まい・医療・介護・予防・生活支援」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「住まい・医療・介護・予防・生活支援」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「病院医療だけ」に対応する説明で、判断対象「住まい・医療・介護・予防・生活支援」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。住まいを基盤に、医療・介護・予防・生活支援を包括的に確保する考え方である。判断対象は「住まい・医療・介護・予防・生活支援」。地域包括ケアは住み慣れた地域で生活を継続できるよう、市町村等が地域特性に応じて構築する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q141

リハビリテーション医学・保健医療福祉 > 障害概念・健康増進・予防 | 基礎

一次予防に該当するのはどれか。この論点で、選択肢「障害固定後の社会復帰だけ」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 予防段階の定義ではない。
- イ. 早期発見・早期治療は二次予防に位置づけられる。
- ウ. 機能回復・再発防止は三次予防に関連する。
- エ. 一次予防は疾病や障害の発生そのものを防ぐ。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「終末期ケアだけ」に対応する説明で、判断対象「障害固定後の社会復帰だけ」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「発症後の早期診断だけ」に対応する説明で、判断対象「障害固定後の社会復帰だけ」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「障害固定後の社会復帰だけ」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「疾病発症前に生活習慣改善や予防接種などで発症を防ぐ」に対応する説明で、判断対象「障害固定後の社会復帰だけ」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。機能回復・再発防止は三次予防に関連する。判断対象は「障害固定後の社会復帰だけ」。予防は一次・二次・三次に分けて整理すると、健康増進とリハビリテーションの役割を理解しやすい。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q142

リハビリテーション医学・保健医療福祉 > 障害概念・健康増進・予防 | 基礎

二次予防に該当するのはどれか。この論点で、選択肢「健診などによる早期発見と早期治療」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 発症前の健康教育は一次予防である。
- イ. 二次予防は疾病を早期に発見し、重症化を防ぐ。
- ウ. 三次予防に近い。
- エ. 活動・参加支援であり二次予防そのものではない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「疾病発症前の健康教育だけ」に対応する説明で、判断対象「健診などによる早期発見と早期治療」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「健診などによる早期発見と早期治療」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「後遺症固定後の職業復帰支援だけ」に対応する説明で、判断対象「健診などによる早期発見と早期治療」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「住宅改修だけ」に対応する説明で、判断対象「健診などによる早期発見と早期治療」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。二次予防は疾病を早期に発見し、重症化を防ぐ。判断対象は「健診などによる早期発見と早期治療」。リハビリテーション職も健診後の生活改善支援や重症化予防に関与する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q143

リハビリテーション医学・保健医療福祉 > 障害概念・健康増進・予防 | 標準

三次予防に該当するのはどれか。この論点で、選択肢「出生前診断だけ」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア.「脳卒中後の再発予防と障害悪化防止、社会復帰支援」について：三次予防は発症後の機能低下・合併症・再発を防ぎ、生活再建を支える。
- イ.「出生前診断だけ」について：一般的な三次予防の例ではない。
- ウ.「予防接種だけ」について：一次予防に相当する。
- エ.「疾病発見前の生活習慣啓発だけ」について：一次予防に相当する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「脳卒中後の再発予防と障害悪化防止、社会復帰支援」に対応する説明で、判断対象「出生前診断だけ」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「出生前診断だけ」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「予防接種だけ」に対応する説明で、判断対象「出生前診断だけ」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「疾病発見前の生活習慣啓発だけ」に対応する説明で、判断対象「出生前診断だけ」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。一般的な三次予防の例ではない。判断対象は「出生前診断だけ」。リハビリテーションは三次予防と深く関係するが、健康増進や一次・二次予防にも関与する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q144

リハビリテーション医学・保健医療福祉 > 障害概念・健康増進・予防 | 応用

健康増進の考え方として最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「個人の行動だけでなく、環境や社会的条件も健康へ影響すると考える」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア.社会的決定要因は健康格差に関与する。
- イ.健康は生活習慣に加え、社会・環境・経済的要因の影響も受ける。
- ウ.社会参加は健康と生活機能へ影響し得る。
- エ.個人責任だけでは説明できない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「住環境や所得は健康と無関係である」に対応する説明で、判断対象「個人の行動だけでなく、環境や社会的条件も健康へ影響すると考える」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「個人の行動だけでなく、環境や社会的条件も健康へ影響すると考える」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「社会参加は健康に影響しない」に対応する説明で、判断対象「個人の行動だけでなく、環境や社会的条件も健康へ影響すると考える」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「健康は本人の努力だけで決まる」に対応する説明で、判断対象「個人の行動だけでなく、環境や社会的条件も健康へ影響すると考える」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。健康は生活習慣に加え、社会・環境・経済的要因の影響も受ける。判断対象は「個人の行動だけでなく、環境や社会的条件も健康へ影響すると考える」。作業療法では個人の能力だけでなく、活動機会や環境を整える健康増進の視点が重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q145

リハビリテーション医学・保健医療福祉 > 医療・介護・障害福祉制度 | 基礎

介護保険の保険者は原則としてどれか。この論点で、選択肢「国だけ」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 医療機関は保険者ではない。
- イ. 介護保険の保険者は市町村・特別区である。
- ウ. 国は制度設計等を担うが保険者ではない。
- エ. 都道府県だけではない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「医療機関だけ」に対応する説明で、判断対象「国だけ」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「市町村および特別区」に対応する説明で、判断対象「国だけ」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「国だけ」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「都道府県だけ」に対応する説明で、判断対象「国だけ」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。国は制度設計等を担うが保険者ではない。判断対象は「国だけ」。介護保険では市町村等が保険者として要介護認定や保険給付に関与する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q146

リハビリテーション医学・保健医療福祉 > 医療・介護・障害福祉制度 | 基礎

介護保険サービス利用に関する要介護認定について正しいのはどれか。この論点で、選択肢「心身状態や介護の必要度を一定の手続で判定する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 年齢だけで介護度は決まらない。
- イ. 市町村等が認定を行う。
- ウ. 主治医意見書は認定過程で用いられる。
- エ. 認定調査や主治医意見書等を用いて介護の必要度を判定する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「年齢だけで自動的に要介護5になる」に対応する説明で、判断対象「心身状態や介護の必要度を一定の手続で判定する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「市町村は関与しない」に対応する説明で、判断対象「心身状態や介護の必要度を一定の手続で判定する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「主治医意見書は一切使わない」に対応する説明で、判断対象「心身状態や介護の必要度を一定の手続で判定する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「心身状態や介護の必要度を一定の手続で判定する」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。認定調査や主治医意見書等を用いて介護の必要度を判定する。判断対象は「心身状態や介護の必要度を一定の手続で判定する」。介護度は疾病名ではなく、介護に要する手間などをもとに認定される。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q147

リハビリテーション医学・保健医療福祉 > 医療・介護・障害福祉制度 | 基礎

介護保険でケアマネジャーが担う役割として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「医師の代わりに診断を確定する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 障害年金審査を専門とする職種ではない。
- イ. 介護支援専門員は本人のニーズを把握し、サービス計画と連絡調整を行う。
- ウ. 直接介護だけが役割ではない。
- エ. 医学的診断は医師の業務である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「障害年金の審査だけを行う」に対応する説明で、判断対象「医師の代わりに診断を確定する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「本人の生活課題に応じたケアプラン作成やサービス調整を支援する」に対応する説明で、判断対象「医師の代わりに診断を確定する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「全ての介護を本人に代わって実施する」に対応する説明で、判断対象「医師の代わりに診断を確定する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「医師の代わりに診断を確定する」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。医学的診断は医師の業務である。判断対象は「医師の代わりに診断を確定する」。作業療法士はケアマネジャーと生活目標や福祉用具・住宅環境などを共有する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q148

リハビリテーション医学・保健医療福祉 > 医療・介護・障害福祉制度 | 基礎

障害福祉サービスについて適切なのはどれか。この論点で、選択肢「障害のある人の地域生活や自立、社会参加を支えるサービスを含む」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 福祉サービスであり入院医療だけではない。
- イ. 居宅介護、生活介護、自立訓練、就労支援、共同生活援助など多様な支援がある。
- ウ. 就労移行・継続・定着支援などがある。
- エ. 年齢だけで高齢者に限定されない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「入院医療だけを提供する」に対応する説明で、判断対象「障害のある人の地域生活や自立、社会参加を支えるサービスを含む」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「障害のある人の地域生活や自立、社会参加を支えるサービスを含む」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「就労支援は含まれない」に対応する説明で、判断対象「障害のある人の地域生活や自立、社会参加を支えるサービスを含む」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「高齢者だけが対象である」に対応する説明で、判断対象「障害のある人の地域生活や自立、社会参加を支えるサービスを含む」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。居宅介護、生活介護、自立訓練、就労支援、共同生活援助など多様な支援がある。判断対象は「障害のある人の地域生活や自立、社会参加を支えるサービスを含む」。障害福祉制度では本人の地域生活を支えるため、介護・訓練・就労・住まい・相談支援などを組み合わせる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q149

リハビリテーション医学・保健医療福祉 > 医療・介護・障害福祉制度 | 基礎

高齢の脳卒中患者が退院後に在宅でリハビリテーションや介護を必要としている。支援として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「本人の生活目標は制度調整に不要である」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 病状管理と生活支援が連続するため医療・介護連携が重要である。
- イ. 必要な医療は継続される。
- ウ. 地域包括ケアでは制度を越えた連携が重視される。
- エ. 本人の生活目標を軸に支援を組み立てる。

答え・4肢解説

正答：エ

- ア：誤り。これは別の選択肢「医療・介護の双方の必要性を評価し、制度間で情報共有しながら支援を調整する」に対応する説明で、判断対象「本人の生活目標は制度調整に不要である」の直接の根拠ではない。
- イ：誤り。これは別の選択肢「介護保険を使うと医療は一切受けられない」に対応する説明で、判断対象「本人の生活目標は制度調整に不要である」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「医療保険と介護保険は無関係なので連携しない」に対応する説明で、判断対象「本人の生活目標は制度調整に不要である」の直接の根拠ではない。
- エ：正しい。これは判断対象「本人の生活目標は制度調整に不要である」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。本人の生活目標を軸に支援を組み立てる。判断対象は「本人の生活目標は制度調整に不要である」。制度選択は単なる給付区分ではなく、本人が地域でどう暮らすかを支えるために調整する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT03 Q150

リハビリテーション医学・保健医療福祉 > 医療・介護・障害福祉制度 | 基礎

障害福祉や介護保険制度について国家試験学習上、最も適切な学び方はどれか。この論点で、選択肢「法令・制度の目的、対象、サービス体系、関係機関など基本骨格を理解し、改定事項は最新情報で確認する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 制度は改定され得るため、骨格を理解しつつ最新の公的情報を確認することが重要である。
- イ. 一次情報を優先する。
- ウ. 報酬単価や細部は改定される。
- エ. 介護・障害福祉制度は定期的に見直される。

答え・4肢解説

正答：ア

- ア：正しい。これは判断対象「法令・制度の目的、対象、サービス体系、関係機関など基本骨格を理解し、改定事項は最新情報で確認する」が正答となる理由を直接説明している。
- イ：誤り。これは別の選択肢「民間ブログだけを唯一の根拠にする」に対応する説明で、判断対象「法令・制度の目的、対象、サービス体系、関係機関など基本骨格を理解し、改定事項は最新情報で確認する」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「過去の報酬単価を永久に固定して暗記する」に対応する説明で、判断対象「法令・制度の目的、対象、サービス体系、関係機関など基本骨格を理解し、改定事項は最新情報で確認する」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「制度改定は起こらないと考える」に対応する説明で、判断対象「法令・制度の目的、対象、サービス体系、関係機関など基本骨格を理解し、改定事項は最新情報で確認する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。制度は改定され得るため、骨格を理解しつつ最新の公的情報を確認することが重要である。判断対象は「法令・制度の目的、対象、サービス体系、関係機関など基本骨格を理解し、改定事項は最新情報で確認する」。2026年も介護保険・障害福祉の次期改定に向けた議論が進んでいるため、制度問題では施行時点の公的情報確認が重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認